

令和 3 年度 事業報告

(令和 3 年4月1日 ~ 令和 4 年3月31日)

社会福祉法人 豊 友 会

児童養護施設 島 添 の 丘

児童自立生活援助事業 島添ホーム

目 次

I. 社会福祉法人「豊友会」の概要	1
1. 目 的	1
2. 沿 革	1
3. 組織機構図、役員氏名	2
II. 令和3年度事業実施報告（本部）	3
1. 豊友会実績報告	3
(1) 理事会について	3
(2) 評議員会について	3
(3) 評議員専任・解任委員会について	3
(4) 令和3年度の重点目標の評価と反省	3
2. 監査報告	6
III-I. 児童養護施設「島添の丘」の概要	7
III-II. 島添の丘基本理念・基本方針	7
III-III. 島添ホームの概要	7
IV. 令和3年度児童養護施設 島添の丘事業計画	8
入園児童の状況	9
年度別入退所・進路状況	10
V. 令和3年度事業実施報告（施設）	11
1. 施設の運営管理	11
(1) 人 事	11
(2) 庶 務	11

2. 入園児童の支援	16
(1) 令和3年度 201 ホーム評価と反省	16
(2) 令和3年度 202 ホーム評価と反省	16
(3) 令和3年度 301 ホーム評価と反省	17
(4) 令和3年度 302 ホーム評価と反省	18
(5) 令和3年度 チャイルドホーム評価と反省	19
(6) 令和3年度 結スマイル評価と反省	20
(7) 令和3年度 委員会活動の評価と反省	20
① 権利擁護委員会	20
② 地域・広報委員会	21
③ 学習・スポーツ委員会	21
④ リービング・アフターケア委員会	21
⑤ 施設環境整備・感染症予防委員会	22
(8) 令和3年度 グループ活動の評価と反省	22
① リーダー会活動	22
② 小学生グループ活動（男子）	22
③ 小学生グループ活動（女子）	23
(9) 令和3年度 ボランティア評価と反省	23
(10) 被虐待児童等地域療育支援体制構築モデル事業の評価と反省	23
(11) 令和3年度 専門的支援の評価と反省	24
① 心理相談事業	24
② 個別対応	24
③ 職業指導	25
④ 家庭支援専門相談事業	25
⑤ 里親支援専門相談員	26
(12) 令和3年度 自立援助ホーム評価と反省	26
3. 令和3年度 参加会議	28
4. 令和3年度 参加研修	30

I. 社会福祉法人「豊友会」の概要

1. 目 的

社会福祉法人「豊友会」は、児童の人権を尊重して多様な福祉サービスが総合的に提供されるように創意工夫することにより、児童それぞれの尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的として次の社会福祉事業を行う。

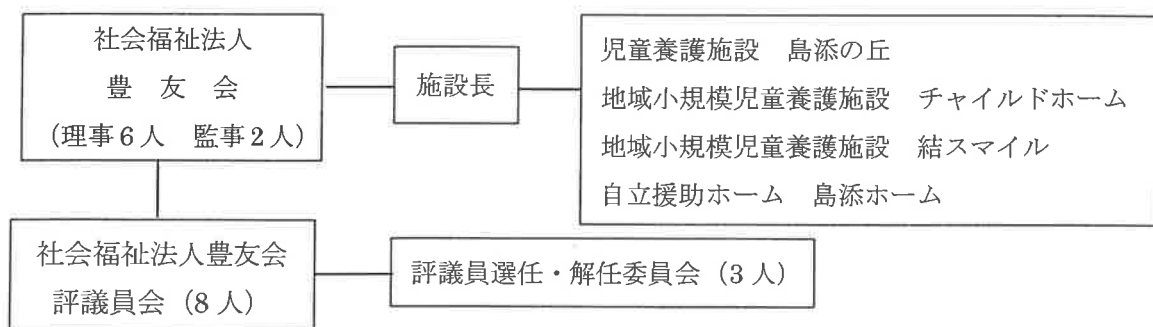
第一種社会福祉事業	児 童 養 護 施 設	「島添の丘」
	地域小規模児童養護施設	「チャイルドホーム」
	〃	「結スマイル」
第二種社会福祉事業	児童自立生活援助事業	
	自 立 援 助 ホ ー ム	「島添ホーム」

2. 沿 革

昭和 58 年 11 月 16 日	法人設立認可
11 月 26 日	赤嶺有快氏初代理事長就任
11 月 29 日	法人登記
12 月 21 日	島添の丘着工 59 年 5 月 15 日完了
昭和 59 年 5 月 1 日	大城安隆氏初代施設長就任
5 月 26 日	落成記念式典・祝賀会
6 月 1 日	島添の丘設置認可 児童入園開始
6 月 26 日	建物保存登記完了
昭和 60 年 6 月 1 日	一周年記念誌発行
平成 4 年 12 月 1 日	自立援助ホーム（県補助金）及びファミリーホーム事業開始
平成 5 年 3 月 31 日	グラウンド擁壁補修工事及び建物前方西側フェンス設置（財団法人中央競馬社会福祉財団）
平成 11 年 10 月 20 日	島添の丘「児童を支援する会」発足 初代会長瑞慶覧長弘氏就任
11 月 27 日	創立 15 周年記念式典・祝賀会（改善センター）
平成 12 年 9 月 22 日	「福祉サービスに関する苦情解決委員会」設置
平成 18 年 3 月 31 日	児童養護施設分園型自活訓練事業「ファミリーホーム」終了
4 月 1 日	地域小規模児童養護施設「チャイルドホーム」与那原町に開設
平成 21 年 11 月 13 日	創立 25 周年記念式典・祝賀会（改善センター）
平成 22 年 1 月 15 日	創立 25 周年記念誌の発刊
平成 23 年 4 月 1 日	自立援助ホーム島添ホームの定員 10 人から 8 人へ変更
12 月 21 日	天皇陛下より優良民間社会福祉施設に対する御下賜金賜る
平成 25 年 6 月 1 日	沖縄県こころサポート事業開始
12 月 4 日	こころサポート室新築完成
平成 26 年 11 月 7 日	島添の丘創立 30 周年記念式典・祝賀会（環境改善センター）
平成 27 年 3 月 30 日	第三者評価受審（第 1 回）
8 月 1 日	島添の丘住所表記の変更（字大里から字平良へ）
平成 28 年 2 月 26 日	児童養護施設清浄園（大分県在）と姉妹施設提携
平成 28 年 4 月 1 日	自立援助ホーム島添ホーム定員 8 人から 7 人へ改定

平成 29 年 1 月 13 日 定款変更認可（平成 29 年 4 月 1 日施行）
 3 月 8 日 （福）豊友会 評議員選任・解任委員（3 人）の委嘱
 平成 29 年 4 月 1 日 （福）豊友会評議員（8 人）の委嘱 評議員会設置
 6 月 20 日 定時評議員会（理事・監事の選任 6 月 20 日より任期開始）
 12 月 22 日 第三者評価受審（第 2 回）
 平成 30 年 2 月 1 日 自立援助ホーム島添ホーム与那原町板良敷 4-13 へ転居
 平成 30 年 4 月 1 日 自立援助ホーム島添ホーム定員 6 人から 7 人へ改定
 平成 30 年 6 月 1 日 チャイルドホーム 与那原町字与那原 2998-15 へ転居
 平成 31 年 3 月 28 日 児童養護施設島添の丘 定員 60 人から 40 人へ改定
 児童養護施設島添の丘 小規模グループケア指定（2 ケ所）
 令和 2 年 6 月 1 日 児童養護施設島添の丘 本体施設定員 40 人から 28 人へ改定
 児童養護施設島添の丘 小規模グループケア指定（2 ケ所）
 地域小規模児童養護施設 結スマイル開設
 令和 3 年 4 月 1 日 チャイルドホーム 南城市大里字大城 2557-23 へ転居
 令和 3 年 12 月 21 日 第三者評価受診（第 3 回）

3. 組織機構図、役員等氏名



理事長 宮城 秋夫	理 事 仲原りつ子
理 事 饒平名 宏	理 事 山野 良一
理 事 玉 城 孝	理 事 新垣 和彦
監 事 友利 健太	監 事 島袋 裕美

評議員 島袋 哲也	評議員 花城 安夫
評議員 玉城 恒夫	評議員 金城サエ子
評議員 新 垣 節	評議員 上地寿賀子
評議員 知 念 厚	評議員 宮 城 亮

評議員選任・解任委員	島袋裕美（豊友会 監事）	
評議員選任・解任委員	前里輝明（外部委員）	
評議員選任・解任委員	奥間 譲（事務局職員）	（令和 4 年 3 月 31 日現在）

Ⅱ. 令和3年度事業実績報告【本部】

1. 豊友会実績報告

(1) 理事会開催 5回（第1回及び第4回 書面決議）

令和3年度の理事会は5回開催された。第1回及び第4回についてはコロナウィルス感染拡大抑止の観点から決議の省略を行い提案事項につき書面による同意とした。議案の内容は予算や決算等事業執行に関する定例の審議事項の他、役員改選に関する事項や規程の一部改正に関して審議された。

(2) 評議員会開催

定時評議員会 令和3年6月25日（金）15:00～15:40

開催場所 島添の丘会議室

参加者 評議員7名、理事2名（理事長含む）、監事2名

審議事項

第1号議案

社会福祉法人豊友会 令和2年度計算関係書類及び財産目録（案）の承認について

（報告）社会福祉法人豊友会 監事監査の結果について

第2号議案

社会福祉法人豊友会 次期役員（理事・監事）の選任について

報告事項

社会福祉法人豊友会 令和2年度事業報告について

(3) 評議員選任・解任委員会開催

日 時 令和3年6月15日（火）17:30～18:30

開催場所 島添の丘会議室

参加者 選任・解任委員3名 施設長 庶務課長

当法人に評議員会が設置されて4年が経ち評議員の任期が今年の6月25日で満期となるため、理事会から推薦された8人が次期評議員に選任された

(4) 令和3年度 目標の評価と課題

法人の運営する事業と入所している児童の自立支援のために下記の事項を重点目標として推進してきた。

- ① 児童の自立支援や地域交流を目的に福祉バザーを実施する。今年度も引き続き幅広く地域や関係者に呼びかけて内容の充実を図り地域に根ざした施設イベントとして実施する。

児童の自立支援や地域交流を目的として、福祉バザーを今年度も実施する予定であったが新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から関係者会議にて、昨年に引き続き開催を見送ることを決定した。2年連続での開催見送りとなり、地域行事として定着していましたが中止が続くとイベントの印象も薄れるので、中止になった場合の周知や広報について工夫が必要で

あった。次年度は、コロナ禍の中で開催規模の縮小など開催する方法を検討したい。対外的には中止としたが入園児童と職員や平良区長・理事長・支援する会会長と一部の関係者を招き地域の清掃活動や園内イベントして開催しもちつき大会を楽しむことができた。次年度以降も日頃の支援に対し感謝を伝える機会として地域に根ざした施設イベントとして、もちつき大会・福祉バザーを継続できるようにしたい。

- ② 法人事業と施設の情報公開、啓発活動のために引き続きホームページの充実と広報誌を定期的に発刊する。

「島添だより」広報誌の発刊、今年度は12月に年間をまとめ発刊することができました。表紙には、創立から子ども達の生活を支えてくれた本体施設の内外部の塗装を行い綺麗にお化粧した建物を紹介し、今後も子ども達の生活を見守ってくれることを掲載しました。社会福祉法人豊友会の役員改選があり、引き続き理事長に就任された宮城秋夫氏と監事として就任された島袋裕美氏、評議員の宮城亮氏・知念厚氏の就任あいさつと新任職員の紹介を掲載しました。コロナ過で様々な行事やイベントが中止になるが工夫して取り組んだ園行事やホーム行事等子ども達が元気に過ごしている日常を掲載しました。施設から巣立っていった子どもたちのあいさつや年間の思い出として活動の様子をアルバムとして紹介することができました。令和2年度の決算報告書、寄付者一覧表を掲載しました。また、ホームページの充実として、島添の丘児童を支援する会の広報や各行事の取り組み等定期的に更新することで、「ホームページを見ました」との声も寄せられ支援の輪につながったと思う。

- ③ 職員の働きやすい環境及び福利厚生の実現に努める

今年度の民間施設給与改善費の3%分については、庶務課職員の処遇改善加算手当に充当させて後、年度末に一時金として常勤職員、非常勤職員（6時間以上かつ20日以上勤務した者）に支給した。また、今年度（令和3年11月19日閣議決定）において、新型コロナウイルス感染者への対応が重なる最前線において働く社会的養護を担う施設及び事業所に従事する者の処遇改善のため、賃上げ効果が継続される取り組みを前提として令和4年2月から収入を月額9,000円引き上げるための措置を実施するとの通達があり、今年度分に関しては3月の給与で支給するようにとの通達で、当施設でも法人の役員を兼ねる施設長以外の職員へ支給した。次年度10月から措置費に加えるとのことであるが、収入として不安定な要素もあり、基本給のベースアップは厳しい状況であり、給与規程を一部改正して毎月の手当てとして支給することになった。

年休取得について、各職員に計画的に年休を使用するよう伝達し10日以上年休付与者に対しては5日以上取得できるように行いました。産休・育休から復職し子の看護休暇を効率よく取得している職員もいます。継続して働ける環境について、諸法令などが適用できるように努めたい。

前年度に引き続き新型コロナウイルス感染防止対策として、安心して働くことができるように濃厚接触の疑いがある職員と同居家族については、PCR検査を施設負担で行いました。また、オミクロン株に置き換わり、感染が爆発的に増えた時期には2週間に1度の頻度で全職員（児童）のPCR検査を実施しました。濃厚接触者や陽性者に関しては、保健所の指示に従い休業を実施しました。また、家族への感染や家族からの感染を防止するために、チャイル

ドホームが使用していた借家（与那原町在）を職員が宿泊できるように賃貸を継続して活用しました。ワクチン接種に関しては、接種希望者へは勤務時間内での接種や接種後に年休が取得できるように配慮し、会議時間の短縮（zoom 会議）、行事等は感染対策を行い工夫しながら実施、パーテーションの設置、業務上で使用するマスク、防護服等の消耗品を揃える等々感染防止に努めました。

④ 「沖縄県社会的養育推進計画」に添って施設の小規模化や多機能化、施設建設の在り方について検討する

平成 31 年 3 月 28 日に本体施設の一部を小規模グループケアとして指定を受けました。本体施設の定員を 60 名から 40 名に改定し 2 階男子ホームは定員 8 名の 2 ホームとしました。（8 名の定員については経過措置） 3 階女子ホーム 12 名の 2 ホームです。

令和 2 年 6 月に大里ニュータウン内に小規模児童養護施設結スマイル（女子）を新たに開設しました。本体施設 3 階女子ホームを定員 6 名の 2 ホームとし 2 階男子ホームは定員 8 名の 2 ホームで本体施設定員 28 名の小規模グループケアとなりました。今年度は、与那原町で開設していたチャイルドホームを大里ニュータウンに移転し、より連携が図れるようになりました。島添の丘全体の定員は 40 名で内訳は本体 28 名、チャイルドホーム 6 名、結スマイル 6 名です。次年度は「沖縄県社会的養育推進計画」に沿いながら新たに地域小規模児童養護施設の開設を検討中です。

⑤ 人材確保と育成に努める

福祉分野における人材確保は深刻な状況であり、特に宿直やローテーション勤務で日曜祝祭日の休みなど児童養護施設の勤務形態は若い人たちに受け入れにくい状況があり、児童養護施設を選択しない理由にもなっている。

今年度は、ホームページの活用で、施設の行事等の様子や活動状況の更新を定期的に行いました。施設に関心のある方が閲覧し、求人情報も掲載することで、公募するケースが増えました。正規職員として採用募集を行い試用期間（3 ヶ月）を終えた段階で評価し正規職員として採用しました。

新任や中堅職員は、階層別に心サポート事業嘱託医の長田清先生を講師として迎え児童支援について時間をかけて研修を行いました。今後は沖縄県児童養護協議会の協力を得て、沖縄県版権利擁護ガイドラインを活用した園内研修に取り組みたい。

コロナ過で、職員交流も少なく組織力を向上させるために休憩時間とは別に養護課職員に 30 分間のリラックスタイム「30 分トーク」と題してお茶を飲みながらテーマを決めず職員交流を目的に実施しました。オミクロン株の流行によりその活動は途切れたが職員から継続を望む声もある。

今後も人材確保について、厳しい状況は続くと思うので職員処遇の改善や働き方の改善などできることから継続的に計画し実施していくことが必要である。

⑥ 法人の地域における公益的な活動に努める

島添の丘は施設開設当初から地域に根ざした施設づくりを展開してきた。すでに地域活動として定着している活動もある。平良区草刈り、芸能祭、つなひき、PTA 活動等地域活動へ

積極的に参加することで地域住民からの一定の評価をいただいている。前年度からは新型コロナウイルス感染防止の観点から毎年実施していた計画がほとんど中止となり残念であった。

地域のニーズに即した活動として、平良区役員と調整し令和元年度から平良区内の独居老人宅への給食サービスと見守りを民生児童委員さんの協力を得て継続しています。今後も地域福祉ニーズの把握に努め活動を強化し展開していきたい。南城市社会福祉協議会と連携し、お盆前と正月前に独居老人宅の清掃活動を企画計画していましたが中止となりました。

施設の月1度の美化活動の際には、島添の丘の児童と職員が利用している道路の草刈りを定期に実施することで、地域の方から防犯につながると喜ばれている。また、島添の丘の職員の出退勤など安全運転に留意してもらいたいとのご意見があり、当施設の出入り口2か所に安全確認ができるようカーブミラーを設置した。今後も地域と連携しながらできる活動を取り組んでいきたい。

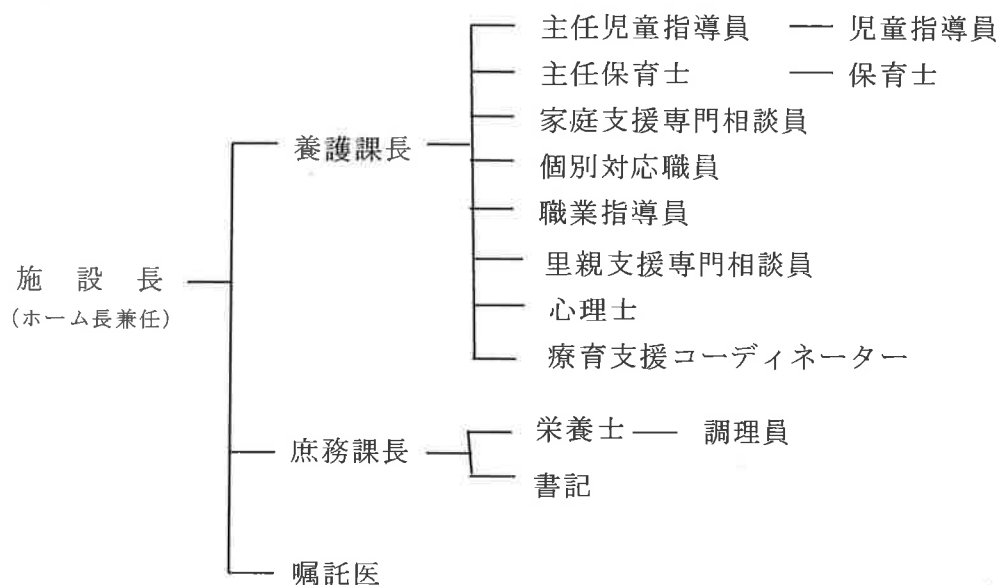
2. 監査報告

①監事監査 令和3年5月24日実施 監事森山順子氏、監事友利健太氏による。

②沖縄県監査指導班による「令和3年度社会福祉法人及び社会福祉施設指導監査」については
新型コロナウイルス感染拡大抑止の観点から昨年に引き続き今年も中止となった。

Ⅲ-I. 児童養護施設「島添の丘」の概要

1. 設置団体 社会福祉法人 豊友会
2. 所在地 南城市大里字平良 2300 番地
3. 施設の概要 敷地面積 4,346 m² 建物面積 1,366.52 m²
4. 定員 40 名（平成 31 年 3 月 31 日）
本体 28 名 チャイルドホーム 6 名 結スマイル 6 名
5. 設置目的
乳児を除いて、保護者のない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせてその自立を支援することを目的とする。（児童福祉法第 41 条）
児童福祉教育の場と青少年健全育成の専門的援助を提供し、関係機関及び地域住民と共に力を合わせて明るい社会づくりに寄与する。
6. 業務機構図



Ⅲ-II. 島添の丘基本理念・基本方針

1. 基本理念

児童憲章の精神と児童福祉法の理念に基づいて、「心豊かでたくましく生きる」児童の育成を目指し、支援する。

2. 目標（めざす児童像）

- (1) 自分自身を大切にできる子
- (2) 思いやりの心を持ち行動できる子
- (3) 自分の夢や希望に向かって頑張る子

Ⅲ-III. 島添ホームの概要

平成 4 年 12 月 1 日より自立援助ホーム（児童自立生活援助事業）として、県の補助を受け開設、平成 18 年 4 月 1 日に地域小規模児童養護施設「チャイルドホーム」を開設すると同時に、同場所で開設したファミリーホーム（分園型自活訓練事業）は事業を終了する。平成 30 年 2 月 25 日に「チャイルドホーム」と場所を分けて与那原町字板良敷へ移転する。

1. 設置団体 社会福祉法人 豊友会
2. 所在地 与那原町字板良敷 4-13
3. 施設の概要 敷地面積 157.99 m² 建物面積 47.8 坪
4. 定員 自立援助ホーム 7 名

IV. 令和3年度 児童養護施設 島添の丘事業計画

1. 基本理念

児童憲章の精神と児童福祉法の理念に基づいて、「心豊かでたくましく生きる」児童の育成を目指す

2. 目標(めざす児童像)

- (1) 自分自身を大切にできる子
- (2) 思いやりの心を持ち行動できる子
- (3) 自分の夢や希望に向かって頑張る子

3. ホーム重点目標

- (1) 健康で明るい子
- (2) 思いやりのある子
- (3) 目標に向かって頑張る子
- (4) 自立に向かって頑張る子
- (5) 安心・安全な生活環境を整える

4. 基本的支援方針

- (1) 児童養護施設運営指針を基に、安全で適切な養育環境をととのえ、児童一人ひとりが精神的に安定し、明るく生き生きとした生活が送れるように努める
- (2) 家族、学校・関係諸機関、ボランティア及び地域との連携活動によって児童の養育効果を高めると共に、児童福祉教育の場と青少年健全育成の専門的援助を提供し、地域に根ざした施設づくりに努める
- (3) 児童の最善の利益が尊重されるように「権利ノート」の活用にも努める
- (4) 家庭の働きに代わる施設の持つ最も重要な役割は、児童の基本的欲求(生理的欲求や安全、愛情、所属、承認、尊敬の諸欲求)の充足であり、それが、信頼関係を育てる基盤になることを自覚し、児童との望ましい関係づくりに努める
- (5) 「心豊かでたくましく、生きることのできる力」をつちかうために、各ホームは児童の実態に即して主体性と創造性を発揮し、一人ひとりの子ども達の基本的欲求の充足を図り、効果的な養育が行われるような家庭的、教育的環境づくりに努める。
- (6) 児童、家族、関係機関の意見を反映した自立支援計画を作成し(実践・評価・改善)各児童の自立支援に努める
- (7) 特別な支援を必要とする児童への個別対応に努め、児童相談所等の専門機関の指導助言を受け、心理療法や個別援助等治療的援助の充実に努める
- (8) 権利擁護、地域・広報、学習・スポーツ、リービング・アフターケア、施設環境整備・感染症予防委員会の各委員会の活動実践を通して養育の充実に努める
- (9) 多様化している養護ニーズに対応するために、地域小規模児童養護施設、自立援助ホームを効果的に活用し児童の自立支援の充実に努める
- (10) ケア方針の調整やケアチームをまとめるために、各ホーム、園内保育、調理員、地域小規模児童養護施設、自立援助ホームに責任者を置き児童の効果的な自立支援を推進する
- (11) 地域活動への参加とボランティア活動や美化活動を通して、所属感の高揚と働くことの喜びを学ぶ
- (12) 児童の学習効果を高めるために、学習対応ボランティアや塾を活用する
- (13) 退園児童が安定した社会生活を送れることができるよう継続的なアフターケアを行う
- (14) スーパービジョンの充実に努め養育効果を高める
- (15) 児童等の意見・申出等への対応に関する実施要綱に基づき児童の福祉サービス向上に努める
- (16) ボランティア活動に積極的に参加し社会性を身につける
- (17) 中長期的展望に基づく運営と職員の働きがいのある職場づくりに努める

入園児童の状況（令和4年3月31日現在）

- 名称：社会福祉法人 豊友会
児童養護施設 島添の丘
- 所在地：南城市大里字平良 2300番地 電話 098-946-3331
- 開園：昭和59年6月1日
- 定員：40人
- 在籍：男24人・女15人・合計39人

年齢別児童数

年齢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
男	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3	0	3	4	1	3	1	3	2	0	0	23
女	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	2	1	4	3	1	0	0	0	16
計	0	0	0	0	2	0	1	0	3	4	0	4	6	2	7	4	4	2	0	0	39

※一時保護児童 男児1名 女児1名

学校・学年別児童数

学校名	学 年	男	女	計	
大里南小学校	園内保育	0	0	0	園内保育園小計 0人
	大里南幼稚園	0	1	1	南幼稚園小計 1人
	玉城幼稚園	1	0	1	玉城幼稚園小計 1人
	1	0	0	0	小学校計 12人
	2	0	1	1	
	3	2	1	3	
大里中学校	4	2	1	3	
	5	2	0	2	
	6	2	1	3	
	1	4	2	6	中学校計 15人
高等学校	2	2	1	3	
	3	2	4	6	
その他	1	1	3	4	高校計 10人
	2	3	1	4	
	3	2	0	2	
合計		23	16	39	

南農(2) 南風原(3) 知念(2) 寛和志(1) 沖縄工業(1) 特別支援(1)

出身市町村別児童数

那覇市	8	西原町	2
沖縄市	2	南風原町	2
南城市	1	北谷町	2
糸満市	4	本部町	1
浦添市	3	八重瀬町	1
豊見城市	1		
うるま市	4		
宜野湾市	4		
名護市	4	合 計	39

地域小規模児童養護施設 チャイルドホーム（男女混合ホーム）

平成18年4月1日認可。一戸建てを使用

令和3年4月現在地へ移転

所在地 南城市大里字大城2557-23 電話 098-945-2717

定員 6人 現員 6人

（令和4年3月31日現在）

男	4	小学生2人 中学生2人
女	2	中学生 2人
計	6	

地域小規模児童養護施設 結スマイル（女子ホーム）

令和2年6月1日認可。2階建ての一戸を使用。

所在地 南城市大里字仲間1042番地26 電話 098-917-5367

定員 6人 現員 6人

（令和4年3月31日現在）

女	6	小学生3人 中学生1人 高校生2人
計	6	

児童自立生活援助事業（自立援助ホーム） 島添ホーム（女子ホーム）

平成4年12月1日より国・県の補助を得て開設。同一場所で開催して

いた分園型自活訓練事業（ファミリーホーム）は平成18年3月31日付けで

地域小規模児童養護施設に変更になる。平成30年2月に現在地へ移転

所在地 与那原町字板良敷4-13 電話 945-3411

定員 7人 現員 2人

（令和4年3月31日現在）

女	2	19歳1名 20歳1人(委託契約)
計	2	

入退所状況(令和3年度中)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入園	6	0	0	0	2	2	1	0	2	0	1	14
退園	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	6

※入園・退園は一時保護児童も含める

区 分		家庭復帰		自立就職		里 親 委 託	他施設への措置変更	自立援助ホーム・その他	合 計
父又母の引き取り		親戚等の引き取り		就 職	進 学				
3		0		0	2	0	1	0	6

年度別入退所状況

年 度	入 園	退 園
昭和59	48	1
昭和60	17	4
昭和61	3	6
昭和62	6	10
昭和63	9	8
平成元	4	7
平成2	12	6
平成3	15	13
平成4	7	10
平成5	8	10
平成6	7	7
平成7	8	6
平成8	7	9
平成9	9	8
平成10	7	8
平成11	10	7
平成12	5	8
平成13	10	9
平成14	8	6
平成15	8	9
平成16	13	15
平成17	7	2
平成18	15	14
平成19	7	10
平成20	13	11
平成21	13	13
平成22	9	4
平成23	10	9
平成24	4	12
平成25	10	8
平成26	4	12
平成27	11	7
平成28	14	7
平成29	5	10
平成30	2	14
令和元	1	6
令和2年	2	13
令和3年	14	6
合 計	362	325

年 度 別 進 路 状 況

年 度	中学校卒業後				浦添職業能力開発校				開発校 中退	高校卒業後			高校 中退
	就職	進学	就職進学	その他	就職	進学	就職進学	その他		就職	進学	就職進学	その他
59	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
60	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
61	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
62	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
63	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
2	1	6	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
3	0	4(1)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
4	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	2	0	0	2	0	0	0	0	3	0	0	1
6	0	4	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	12(2)	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1
8	0	4	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	1
9	0	7	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
10	0	6	0	0	1	0	0	0	0	4	2	0	0
11	0	4	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	1
12	0	3	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
13	0	6	0	0	1	0	0	0	0	4	1	0	0
14	0	5	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
15	0	5	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
16	1	6	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	1
17	0	8	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	0
18	0	6	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
19	0	3	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
20	0	5	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	2
21	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	2
22	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	0	7	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0
24	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	2
25	0	7	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
26	0	7	0	0	0	0	0	0	0	3	4	0	0
27	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
28	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1
29	0	7	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
30	2	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1
元	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0
2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	2	6	0	0
3	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
計	9	149	1	5	10	0	1	2	72	33	3	9	10

Ⅴ. 令和3年度事業実施報告（施設）

1. 施設の運営管理

(1) 人 事（島添の丘・チャイルドホーム・結スマイル・こころサポート島添・島添ホーム）

職員の動態

新規採用 11人（児童指導員5人 保育士3人 宿直専任1人 ホーム補助1人
調理員補助1人）

継続更新（契約） 10人（書記1人 調理員1人 心理士1人 ホーム補助5人 調理員補
助2人）

産休・育児休業 2人（心理士1人 児童指導員1人）

病気休暇 1人（児童指導員1人）

退 職 7人（保育士3人 児童指導員3人 調理員1人）

(2) 庶 務

①運営管理の充実に向けての取り組み

職員処遇改善

- ・社会的養護従事者処遇改善事業が適用され、「給与規程」の一部改正により2月より毎月社会的養護従事者処遇改善手当の支給があり給与面で待遇改善された。
- ・民改費の加算により3月に一時金の形で支給することを継続している（5年目）

設備・備品等環境整備

- ・防犯灯配線工事（平良区側）
- ・変圧器絶縁油取替
- ・消防設備関係（誘導灯・自動火災報知機・避難器具）の整備 消火器（12本）取替
- ・コロナ感染対策事業（県補助金活用）
 - 空気清浄機の設置（各ホーム 事務所 会議室）
 - 顔面体温計（サーマルタブ）を玄関ホールへ設置
 - PCR検査実施（全職員・全児童 1月2回 2月2回） 抗原検査キットの常備、衛生消耗品（アルコール マスク、ペーパータオル ハンドソープ 手袋等）
 - パーティションの設置（各ホームの食卓、会議室）
 - 借家（感染者隔離のため）の確保
- ・事務の備品整備（レーザープリンターの取替 ノートPCの増）
- ・オンライン環境整備（ズームのライセンス契約等）
- ・1階窓のブラインド取替（会議室 園長室 なんでも相談室 玄関ホール）
- ・本体施設出入口にカーブミラー2台設置

②児童の快適な住環境の整備

- ・各ホームの家電製品の買替え（炊飯器 オーブンレンジ 洗濯機 エアコン等）
- ・児童の教養娯楽に関する整備（サッカーゴール整備、テレビ、ビデオデッキ等買替）
- ・小規模化に伴い、寝具類をリースから個人専用買い与え家庭環境に近づけた。

③働きやすい職場に関する整備

勤務体制を検討しながら試みている状況である。職員の増員の為求人を出したが計画通りにはいかなく年間を通して職員が不足している状況であった。年休取得状況は計画的な年休執行を促したりワクチン接種後に取得させるなど意識的な取り組みもあり取得率がよくなった。

④人材育成の推進

コロナ禍にあり職員研修はオンライン研修がほとんどであった。人材育成の観点から社会的養護処遇改善加算に関する研修等を計画的に進めることができなかった。次年度はオンライン研修を活用し充実に努めたい。

⑤保健衛生管理の充実

- ・検便 栄養士及び調理員 5 名（毎月 6 人実施）

※ 2 月、3 月は 1 人退職の為、計 5 人

- ・インフルエンザ予防接種（大里こどもクリニック他）

児童 41 名実施（島添ホーム 2 名含む） 令和 3 年 10 月～11 月

職員 5 名（ワクチン確保が困難だった為、希望者のみ実施）

- ・厨房及び建物周辺消毒 第 1 回 令和 3 年 7 月実施 （株）亜土消毒
第 2 回 令和 4 年 3 月実施 //

- ・厨房内の大掃除 毎月 1 回午前中

- ・水質検査 毎日始業前・終業後実施 厨房職員

簡易専用水道検査 令和 4 年 3 月実施 沖縄県環境科学センター

- ・貯水槽清掃及び消毒 令和 4 年 3 月実施 （株）関西総合ビル管理

- ・調理員の個人衛生管理点検実施（毎日始業前に各々の健康状態をチェック）

- ・食中毒の予防についてポスター・会議等にて職員へ周知徹底

- ・『異物混入時の対応方法』のフローチャートの周知

- ・健康診断

○児童

身長・体重測定（栄養士対応） 令和 3 年 8 月 37 名実施（全児童）

嘱託医による内科健診 令和 3 年 8 月 37 名実施（ // ）

（みなみ野クリニック）

沖縄県健康づくり財団による健診 令和 3 年 11 月 38 名実施（島添ホーム 1 名含む）

検査項目：視力、聴力、血液、心電図、尿、ぎょう虫、血液型（新入園児のみ）

○職員

定期健康診断 49 名実施（島添ホーム含む全職員実施）

期 日 令和 3 年 7 月～令和 4 年 3 月

医療機関 沖縄県健康づくり財団、ちばなクリニック、
豊見城中央病院、ハートライフ病院、
浦添総合病院、赤十字病院

宿直勤務従事者の健康診断 24 名実施（島添ホーム 3 名含む）

⑥食生活の充実

・豊かな食環境づくり

子ども達にいろいろな料理を知ってもらうために、和洋折衷様々なメニューを取り入れた。定期的に沖縄の家庭料理も組み合わせ、日常的に食卓へチャンプルーやイリチーなどを出すように意識した。また、お祝いの日（新入学祝い・開園記念日・お正月等・壮行会）には普段より少し食事を豪華にし、お祝いケーキと併せて提供し食事で楽しんでもらった。その際には、分園の分もまとめて本園で作り、園全体でお祝いの日を分かち合った。

今年度は各ホームが小規模化（6～8名）になった事もあり、より家庭に近い形での食事提供をしていく必要があると考え、“令和3年度食事提供方法についての計画書”を作り実践した。食事作りの場をできるだけホームで行うように計画していった。

土日祝日のホームでの朝食作りは定着し、現在も継続している。簡単な調理なのでホームに負担もなく実施できている様子。休日はホームのリズムに合わせて朝食作りを行えるので、残食も減っている。

また、土曜日のホームでの夕食作りも定着し現在も継続できている。開始当初は職員から“調理に負担を感じる・児童を見ながらの調理は厳しい”などの意見があったが、メニューを簡単にしたり、ホームのリクエストをとったりと工夫することで調理の負担を軽減させて楽しみをもたせた。自分たちの希望した料理が食卓に並ぶのは嬉しい様子。

調理員がホームに入ってから夕食作りも計画して実践した。6月の週1回から開始し徐々に回数を重ね年度内で夕食作りをすべてホームで行いたいと計画したが、調理員人員不足・退職・コロナによる影響などで計画通りに行えなかった。“調理員によるホームでの調理についてのアンケート”をとったところ、「温かい食事が食べられる」という意見が多かったので、令和4年度もできる範囲で継続していきたい。

・献立作成

○毎日の献立をメリハリあるものにする為に、和洋中様々な料理を取り入れた。また、普段から郷土料理を意識して取り入れるように心掛けた。また、様々な行事食を取り入れ、食事で楽しんでもらえるよう工夫した。（表1）

○学校給食のメニューと重ならないように考慮した献立作成を行った。

- ・給食がパンの時には朝食をご飯メニューにする
- ・給食が魚メインの時には夕食を肉メインにする 等

○子どもの誕生日には本人からリクエストを聞いて、夕食に組み合わせ提供し、特別の日であることを食事を通して伝えた。

○残食調査・嗜好調査を実施して実態を把握し、児童の意見を献立に反映させた。

○今年度はコロナによる緊急事態宣言・蔓延防止等重点措置などにより、たびたび長期間の外出・外泊等の規制があった。制限がある中でもメニューに“テイクアウトの日”を組み込み、楽しい食事になるよう工夫した。

(表 1)

月	行事	献立名
4月	入学・進級祝い	イナムドチ、お刺身盛り合わせ、クーブイリチー、ケーキ
5月	GW こどもの日 ゴーヤーの日	好きなピザを注文 好きなテイクアウト or 予算内で手作り ゴーヤーチャンプルー
6月	開園記念日祝い	中味汁、天ぷら盛り合わせ、クーブイリチー、ケーキ
7月	七夕	冷やしそうめん
9月	観月会	手作りオードブル
10月	沖縄そばの日	沖縄そば
12月	クリスマス 大晦日	パーティーメニュー（ピザ、にぎり寿司、チキン、キッシュ、フライドポテト、サラダ、ゼリー、ケーキ等） 年越しソーキそば
1月	正月 1 日 2 日 3 日	お雑煮、手作りオードブル、にぎりずし、 夕食はテイクアウト or 予算内で手作り調理 イナムドチ、天ぷら盛り合わせ 夕食はテイクアウト or 予算内で手作り調理 中味汁、ステーキ
2月	節分の日 5 日	海鮮ちらし寿司 夕食はテイクアウト or 予算内で手作り
3月	ひな祭り 高校入試応援料理	ちらし寿司、はまぐりの吸い物、鶏のからあげ いちご、ひなあられ とんカツ

- ・ 自立支援に向けて基礎的な調理技術を習得できるようにする

○高校生のお弁当作り

今年度、初めてのお弁当作りをする高校は新 1 年生の 2 名と新規入所の高校 2 年生 1 名の計 3 人だった。お弁当作りに不安がある児童には 4 月に一度弁当作りの練習を行い基本的知識を児童に伝えた。

毎週月曜日は高校生自身でメニューを決め、買い出しを行い、調理まですべて高校生が行っている。男子高校生はチャーハン等単品メニューを好む傾向がある。また、冷凍食品を多く使用している。女子高校生は 1 品、野菜を入れたりするなど彩りも考えている様子のお弁当である。男子ホームのお弁当の内容としては栄養バランス・彩りなど疑問を感じるが、朝食・夕食をしっかりとっていれば栄養バランスは問題ないを考える。自分の作りたい、食べたい料理を持っていける唯一の日となっている。各々の力量にあった工夫や挑戦があり成長がみられる。お

弁当を通して栄養バランス等を伝えていきたい。

火曜日～金曜日は児童に負担にならないよう、栄養士が献立を考え材料を準備し、仕込みを調理員が行い、前日に材料とレシピを各ホームに届け調理は当日早朝高校生が行った。初めてのお弁当作りが負担にならないよう、メニューをとても簡単にしたり、難しい料理、火の通りが心配な料理は厨房職員がつくるなど献立作成にも配慮した。レシピに衛生面での注意事項等も記入しており、毎日レシピを見る事で衛生面の基本的な事も自然に身に付くようにした。

○調理実習

今年度は調理実習という形ではなく、ホームでの食事作りを多く取り入れた。ホームでの朝食作り、土曜日の夕食作りを自ら進んで手伝う児童の姿がみられた。“家庭的雰囲気”という意味ではこの方法を増やしていくことで、より家庭に近づけるのではないかと思いますので、次年度も継続したい。また、「おやつ作りをしたい」という声があるので、お菓子作りも増やして調理への関心、食事への関心へと繋げたい。

⑦ 危機管理体制の強化

施設環境整備委員会を立ち上げ、定期的な安全確認、美化活動を実施した（委員会活動の総括参照）

権利擁護の学習会については、権利擁護委員会を中心に組み込んだ（委員会活動総括参照）

危機管理マニュアルの整備・虐待防止マニュアルの整備については既存のマニュアルに追加することでその都度変更している。感染予防マニュアルを追加することで対応した。

⑧ 施設小規模化の推進

令和2年度に本体・分園全てが小規模化されて令和3年度はそれぞれの特徴を出しながら活動してきた。令和5年度に3ヶ所目の地域小規模施設開設を予定している。小規模ならではの取り組みについてアイデアを出しながら充実させていきたい。

2. 入園児童の支援

(1) 201 ホーム評価と反省

- ・今年度は、ホーム職員が男性2名、女性1名、主任1名の計4名でホームを運営する事になった。児童は、中学生2名、高校生3名の5名でスタート。10月に中学2年生が入所。1月に小学6年生が3階ホームから移動し7名になった。途中で入所した児童は、ホーム生活にも早く慣れ、皆と仲良く過ごせるようになった。
- ・日常生活として、平日は就寝時間も各々で意識できているが、休日になると遅くなる児童が数名いた。高3生、中3生と受験生の2名は、遅くまで受験勉強や奨学金の書類作成に取り組んでいたが、学校生活に影響出る事は無かった。2名ともそれぞれ志望の学校へ無事合格している。
- ・児童支援では、高校2年の児童が夜遅くまでiPadやゲームをして朝起きられずに遅刻や欠席する事が多かった。ホーム職員以外にも協力してもらい、起床促しや病院受診を対応する。また、支援会議を行い2学期後半から状況は改善しており、自主起床は、まだまだだが遅刻、欠席は減り登校出来ている。
- ・コロナ禍の影響もあり、各学校が休校となり園内にいる時間が長い為か施設内恋愛が目立ち始める。ホームでは2名の児童が異性との距離も近いなど留意して把握が必要であった。権利擁護委員会と連携し、全職員で統一した認識のもと支援に取り組んだ。性的な問題は起きなかったが他者（異性間）との距離間や関わり方には今後も気を付ける必要がある。
- ・ホームで計画した行事は、コロナ禍の影響もあり中止や変更となる事も多かった。その中でも、状況が落ち着いた12月には施設外でキャンプを実施できた。施設外の活動とあつてか自分の気持ちを吐き出す児童もあり、児童同士、児童と職員の関係性を深める機会になった。又、キャンプにはホーム職員のみならず、長年成長を見てくださった職員が参加してくれ、児童も安心して感情を出す事が出来た。今後もホーム職員だけではなく、児童らと関係性の深い職員と協力していきたい。
- ・施設外の活動として、小学生と中学生の児童2名が「現代版組踊 鬼鷲」に参加した。毎週の練習と自主練の成果もあり、舞台公演へも参加する事ができ、本児らの自信に繋がった。来年度も継続して参加したいと希望しており継続できるよう援助していきたい。
- ・学習面では、テスト前になると勉強に取り組む姿はあるが、自発的に家庭学習する事は少ない。学習時間の確保や職員も一緒に取り組む等、働きかけ次第では家庭学習も期待出来そうであり、今後は学習面での支援も力を入れていきたい。
- ・中学3年生の児童は受験生として4月から入塾し勉強にも取り組む。家庭学習や面接練習は習慣化しており無事に第1志望高校（南部農林高校）に合格した。
- ・学力面で気になった中学1年生は、学校とも相談ができWISK検査を行う。検査の結果（IQ71）次年度は通級クラスを利用する予定。
- ・高校3年生は大学進学を希望。進学資金の為、奨学金申請にも取り組む。複数の給付型奨学金が受給決定する。本児も受験に向けて頑張り、志望大学へ無事に合格することができた。自分で予測して行動することが苦手であり、自立に向けては気になる面も多い。本児も計画的に行動出来ない事から不安を訴える事もあり、専門機関（病院）にも相談。受診、発達検査を行う。卒園後も継続して支援できるよう計画作成し、新生活に慣れる半年間は密に支援を行う予定。
- ・家族支援ではFSWと連携し、定期的な電話交流や帰省調整を行った。特に中学1年生や高校3年生は携帯の持ち込みや進路決定の為、保護者との面談を行うなど連携した。
- ・経験の浅い（2年目、1年目）ホーム職員によるホーム運営であったので不安は大きかったが、児童の人数が少なくなった分個別の時間をしっかりと取る事ができ、児童間での大きなトラブルや怪我もなく、ホームとして安心・安全に過ごす事ができた。また、受験生の2名も自身で進路決定し無事に志望の学校に合格することができた。来年度は大きくホーム編成が変わる予定であり、一人一人の情報を共有しながら、次年度も児童の安心・安全に留意し、子ども達の自立支援に向けて連携しホーム運営にあたりたい。

(2) 202 ホーム評価と反省

今年度は、中学生2名、高校生3名の合計5名でスタートした。12月に新たに中学2年生が入所し、合計6名となった。職員が年度の途中で退職があり変動が多かった。

昨年同様に規則正しい生活リズムの定着に重点を置いた。就寝時間、日課に関しては各々で考えて行動

する事が出来ていたが、起床時間、部屋の整理整頓、話を聞く姿勢前期は声掛けされることが多かった。

中学生、高校生だけの年長児ホームになり少々ルーズな面も出てくる。特に言葉づかいでは暴言なども出る事があり、注意される事が多かった。話し合いをした後には言葉使いが良くなるが、しばらくすると元に戻っている状態であった。言葉使いに関しても継続して話を向けていく必要がある。

健康面では、1年を通して体調を崩す児童は少なく、コロナに感染する児童はいなかった。次年度も引き継ぎうがい、手洗いを意識して感染対策を徹底し、健康管理に留意したい。

コロナ禍でホーム行事も実施できないものもあった。児童がストレスをため込まないよう園内での行事を工夫し、ドライブなどの小外出を行いストレス発散が出来るように考慮した。12月には古宇利島のペンション宿泊はコロナ対策も行い実施した。児童と職員がじっくりと話し合う事もでき、良い行事になった。

学校生活では、中学3年生がサッカー部を継続して取り組めた。中体連夏季大会まで部活を頑張り島尻地区大会で優勝し、県大会出場を果たしている。部活動引退後は高校受験に向けて通塾を始める。施設長や職業指導員と個別で学習にも取り組み、無事に志望する高校へ合格することができた。

高校3年生は年度初め就職を希望していたが、職員と話し合いを深め大学進学を希望する。貯金額が少なく学費面では心配であったが、奨学金の申請など職業指導委員やFSWと協力して、複数の奨学金の受給も決めることができた。志望の大学にも無事に合格することができ、いろいろな支援を活用してアパートの契約もでき卒園できた。

高校1年生は資格を3つ（玉掛け技能検定・ガス溶接技能講習・測量検定）取得出来た。高校2年生は将来の目標がまだ具体的に定まっていないが、職員との話し合いや先輩の姿を見て、自身が就きたい職業（目標）も見つかり専門学校に進学すると決めている。次年度、卒園に向けて計画的に取り組んでいけるよう職員間でも連携して支援していきたい。

施設にはたくさんの支援、寄贈が寄せられる。いろいろな寄贈をいただき感謝の気持ちが薄くなり、お礼状を書くのを嫌がったりする児童がいた。地域を始めいろんな人達に支えられている事を子ども達に継続して伝え、支援に感謝する気持ちを持てるようにしたい。

次年度も子ども達と協力しながらホーム運営を行いたいと思う。

（3）301 ホーム評価と反省

今年度は、4月より年少男子と女子の混合ホームとして幼児1名、小学生3名、中学生1名、高校生1名の計6名スタートしている。年度途中に新規児童の受け入れもあり、7月に小学生1名、12月に中学生1名を加えて計8名でのホーム体制編成となる。職員は、奥那城（ホームリーダー）友寄、村上がホーム専任、3階主任金城で運営となる。

職員・児童ともに新しいメンバーが多く、ホームでの決まり事や日課を定着するまでには時間がかかったが、施設在籍の長い児童達がホーム生活について知らせ、温かく迎え入れることですぐにホームに打ち解けることができた。時間を増すごとにホームとしての特有の色も出てきた。

日常生活では、職員が児童のケース概要を確認し、担当児童を決めることにより、子ども達も意識して担当職員と生活場面の振り返りをする場を設けることができた。部屋の構成は、1部屋2名定員になり使用できるスペースも広がっている。週末の日課活動では、職員も一緒に片付け方法や部屋の使い方について話を向け、屋児童も互いに居心地の良い空間となるように知らせた。また今年度より個人の布団やシーツも新しく購入している。自分が好きな色や素材をお店に行き一緒に選ぶことで、より自分らしい生活スタイルを築くことができた。

ホーム行事は、昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響で、遠方への外出は簡単にはできなかったが、安全を配慮して計画し、海水浴、公園遊び、ドライブ、食事会、ホーム内でも男女に分けて料理作りやおやつ作りをして行事を楽しめる工夫を行った。また9月に開催された園行事の余興として、ホーム全員で衣装を着てダンスを踊っている。行事は、基本的に全員参加することを心掛けることで、ホームとしての一体感にも繋げることができた。

児童支援として、新しく学校生活をスタートする児童もおり、これまでとは違う環境の変化も大きかっただろうが、すぐに周りにも馴染み友達も多く作ることができている。また今年度は、年少男子と女子の混合ホームとなったことでホーム児童同士の男女の距離間について意図的に声掛けを行った。年長児が年少児に対して余裕持って対応しているが、小学生同士のトラブルも多くその都度職員が介入して話の場を持つことで、後に引きずることもなく、互いに仲直りし合い喧嘩をしない方法も知らせることができた。

施設以外の活動として、現代版組踊 鬼鷲のワークショップ・舞台演技への挑戦や公文、バレエクラブ等積極的に始める児童も多かった。外部サークルへ参加し当初は職員へうまく報連相ができなかった児童も、自分がやりたいことの為に動き、最後まで頑張ることで目標達成することができた。

学習支援として、漢字検定や数学検定にチャレンジする児童も多く、合格して自信に繋がっている。また小6 T は、勉強熱心であり公文や家庭教師にもお願いして学力向上に努めている。苦手であった教科も毎回通うことで、得意科目に変わって自信にも繋がった。

進路支援として、中3 S が3年間頑張った部活を引退して入塾をしている。学習と遊びのバランスを上手に取れず感情のコントロールを崩し、職員とも衝突する時期もあったが、周りに支えられながら志望校に無事合格することができた。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で交流の機会が持てない児童の保護者に対しては、定期の電話交流や手紙で近況を伝える工夫を行った。家族交流が中々できない児童も多く、幼児 Z は、家族の生い立ち整理として LSW を担当職員と児相 CW を中心に行い、自分の家族や周りにいる大人の存在について知らせることで安心して園生活を送り、職員に対しても家族の話をしてくれるようになった。様々な理由で交流が途絶えてしまい、疎遠になっているケースもある為、児相や FSW とも連携を図って今後の支援に努めていきたい。

次年度は、メンバー構成やホームの環境の変化も予想されると思われるが、1人1人が自分らしさを出して自分の目標が達成できるように支援し、居心地の良い家庭的なホーム運営を目指していきたい。

(4) 302 ホーム評価と反省

今年度は小学生男子を含む混合ホームとなり、職員はホーム専任3名と主任の4名。男女混合ホームのため、女性職員・男性職員の特性を活かし、意識を持って児童対応に取り組む事が出来た。

今年度もコロナ禍の影響で制限もあったが、サイクリングやイルミネーション見学、食事会など皆で楽しめる行事を計画し実施する事ができた。また、ホームの大掃除や調理実習等、自分達の生活環境を整えながら楽しむ作業も取り寄せた。

今年度は新規入所する児童が多く、全体として落ち着かない状況が続いた。ホームとして個々の特性や課題など、児童の支援について職員間で何度も話し合い共有し支援に取り組んだ。

児童支援について、小6生 S は心理治療施設より入所。感情コントロールに課題があり、他児童とトラブルになる事も多く、暴力行為・危険行為が繰り返されるようになる。心理治療施設への通所支援で特別通所プログラム及び職員コンサルが開始となる。また、ホームは本児と特性の似た年少児童が集まっており、本児が安定していない要因の一つと考えられたため、年度途中ではあるが、2階ホーム（中学生以上の男子ホーム）へと移動する。移動後は、以前に比べ安定した生活を送る事が出来ている。

小3生 A は、前年度、里親委託となったが、里親の体調不良もあり8月に再入所となった。愛着面の課題も大きく、天邪鬼な行動・言動があり、特に女性職員への執着も強く、暴力が目立つようになる。トラブルの火付け役で被害者になってしまうなど問題行動が続き、児相通所が始まる。

小4生 H は、落ち着きがなく施設でも学校でもトラブルが多い。暴力など他害行為もあり児相へも相談し嘱託医への面接を行う。小児心療内科へつなぐことができ、ADHD と診断され投薬も開始となる。

中3生 S は心療内科への定期受診、投薬を継続中。また、新規入所児童の高2生 S も心療内科へ定期受診、毎月の児童相談所の心理士との面接を継続した。

ホーム全体として特性を持つ児童が集まっており、日常的にトラブルが絶えない状況にあった。専門職や他ホームにも協力してもらい、常時、複数（2名）でホーム把握対応としてトラブル防止・回避、子ども達への個別対応を行い、特に言語化が難しい児童にも時間をかけて対応する事も出来た。また、ホームで仲良く過ごせる方法を子ども達と考え、良いところ探しを目的に11月からは心理士主導の集団心理が開始した。当初、戸惑いや躓く子もいたが、回数を重ねることで積極的に参加出来ていた。ホーム移動で人数も少なくなった1月以降は集団心理から個別での心理へと切り替えている。

学習面では、園内で行われている漢字検定、算数検定を小学生中心に挑戦した。合格を目指して一緒に勉強に取り組む等、目標に向かって努力することが出来た。小2の R は公文教室に入塾して英語を学習し、進級テストにも合格して自信にもつながった。

受験生の中3 S は、早めに志望高を決定する事ができ、部活動を引退後から入塾し、目標を持って受験勉強にも取り組み、無事に第1志望の高校へ合格することができた。

高2のSは将来の夢のために進学を希望している。勉強にも励みながら進学資金の為にアルバイトも始めている。働く厳しさ、楽しさを感じながらも目標に向かってしっかりと頑張っている。

家族関係については、FSWと連携して支援を行った。中3SはFSWと一緒に母との交流を調整。電話交流、面会、外出交流と進める事ができ、中学校卒業式には母にも参加してもらう事ができた。幼稚園Rは家庭復帰調整が進み、外泊交流プログラムを行う。幼稚園卒園後に措置停止にて家庭復帰となる。高2Sは兄と連携して家族交流を調整しているところであり、今後も慎重に交流を進めていく必要がある。その他の児童もFSW、兄とも連携・協力して保護者、親族との交流を調整している。今後も職員間での共有をしっかりと行い児童への支援に努めたい。

小2のRはFCWと里親委託に向けて連携。里親との関係も良好で委託調整も順調に進める事ができ、1月に里親委託となり退所した。

次年度は、子ども達が落ち着いて生活できるホーム、安心・安全なホームとなるよう、子ども達と一緒に考え取り組み支援していきたい。

(5) チャイルドホーム評価と反省

長年、与那原町に所在していたチャイルドホームが、今年度の4月に大里に転居となった。ホームの転居で小学生、中学生3名は転校となるが、以前、在籍していた小学校、中学校であり友達も多く、新しい環境にもスムーズになれる事ができていた。

今年度は、本体施設から小学3年の男子と高校2年の女子が移動し小学生2名、中学生3名、高校生1名の6名でスタートする。高校2年の女子は年度途中の11月に家庭復帰となり、12月にはもう一つの地域小規模ホームより中学3年の女子が移動する。メンバーの変化はあったが、ホーム全体として仲良く協力して過ごす事ができた。ホームでは、年長児（中学生・高校生）がとても穏やかで、小学生と庭で遊んでくれ面倒を見てくれた。また、小学生の暴言や癇癪にも優しく対応してくれています。生活面では、自主起床が定着できていない児童や片付けが苦手な児童もいたが、小規模のより家庭的な環境の中で落ち着いて生活することができている。

小学生の2名は支援学級へ通級している。小3男子は特性もあり新しい学級に慣れるまでに時間がかかる。授業中の離席や時間に教室に戻ることができない、友達とのトラブルも多い等落ち着かず、学校からの連絡も頻繁であった。心理士にも協力してもらい担任と面談を調整する。本児の特性や対応、支援について伝えることで本児の特徴も理解していただき、連携した支援につながり本児も少しずつ落ち着いた。また、受診も継続しており、Drへも状況を伝えて相談し投薬も進められる。本児にも薬については説明し12月から服用を始める。本児も自分で納得して服薬を始める事ができ、嫌がることなくしっかりと服用できている。まだ、感情の波があり暴言や乱暴な行動が見られるが、少しずつ成長していると思います。また、本児は低身長の治療も行っており、毎日のホルモン注射を自分で行っている。

小5男子は支援学級に在籍。感情の表現が苦手而他児との距離感がつかめないという特徴がある。他者との関わりでトラブル（いじめの対象）にもなりがちなので担任との連携には努めている。日々の生活面では、本児が好きな制作活動や野菜作りに取り組む。数種の野菜も収穫でき、ホームの食事で皆にも食べてもらう事もでき、本児の自信につながった。

中2男子はサッカー部を継続。本園のサッカー部メンバーと一緒に練習にも頑張って参加している。中1男子は、中3の姉と一緒に現代版組踊「鬼鷲」に参加する。稽古にも休まず参加しており、とても上達している。男子の中心的メンバーとして大きな舞台に出演する事も増え自信に繋がっている。中3女子も小学生の頃から現代版組踊「鬼鷲」へ参加。とても熱心に稽古にも励み、チーム鬼鷲のメンバーとしていろいろな役割をこなすなどリーダー的存在である。今年度は本公演も含め大きな舞台にも中心メンバーとしてイベントにも何度も出演する。3月には県外（福島県）の公演にも弟と一緒に出演することができた。鬼鷲での活動を通して自信もつき、生活面も安定しており大きく成長している。12月に移動してきた中3女子も鬼鷲に参加する。他メンバーに刺激を受けて稽古にも意欲的である。

受験生2名はそれぞれに志望校、志望学科を自身で選択、決定し、無事に合格することができた。

高2女子は家庭復帰調整が進み11月に家庭復帰となる。学習面では課題もあり心配ではあったが、高校卒業は目指していきたいとの事。

今年度もコロナ禍の影響もあり帰省等交流が少なくなってしまった。家族の状況の変化があるケースや調整が進まないケースもあるが、FSWとも協力してできるだけ家族交流ができるよう調整に努めた。今

後も専門職と連携し支援していきたい。

（６）結スマイル評価と反省

当施設２つ目の地域小規模児童養護施設として２年目。児童６名、職員は４名とホーム補助で子どもたちの支援を行っている。今年度からホーム専任職員が４人になり、宿題対応や余暇活動などゆとりを持って対応する事ができた。

４月は本体施設から移動した小３生、他施設から措置された高１生の５人でスタート、６月下旬に本体施設から中１生が移動する。１０月には中３生が希望していたチャイルドに移動し、同時に本園から小４生（開所メンバーでもある）が入るなど、児童の動きが多い１年であった。支援クラスに在籍する児童や精神科に入院している児童もあり、それぞれの特性も大きいが皆で協力しながら生活している。

今年度もコロナの影響があり活動自粛の日々が多かったが、ホームでドライブや人ごみを避けての外出等で気分転換をする機会は確保することができた。

今年度は子ども達にそれぞれ布団一式を購入して提供する。自分の好みで寝具を選ぶ事ができ、より家庭的な雰囲気も持てた。週末にはシーツなど洗濯を意識し、清潔な自分の寝具で眠りにつくことができた。

工作が好きな高１生が季節の飾り付けを作成してくれ温かい雰囲気を作ってくれた。また、児童や職員の誕生日の際にはお祝いボードを作ってくれた。言葉や態度では上手く表現できない児童であるが、自分が得意な事で表現している。しかし、学校では新しい環境に馴染む事が出来ず１学期で休学し、１０月からアルバイトを始める。最初は順調であったが１月後半からダブルワークを始めたところで調子を崩し、部屋への引き籠りや欠食、服薬拒否、他者とのコミュニケーションが取れない等状況が悪化する。本児の希望もあり、保護所にて２週間の一時保護となる。その後は、本児がホームに戻ることを拒否している為、本園で生活をしている。本児の特性も強く支援に苦慮している状況。本児から家庭復帰を希望もあり児相とも協力し調整を図っている。

今年度は漢字検定や算数検定に挑戦する児童も多かった。事前学習にも取り組み頑張っており、合格した児童は皆の前で合格証をもらい嬉しそうにしていた。もう少しで合格ラインに届く児童もあり、再挑戦に向けて計画的に学習が出来るようにしたい。

家族交流が定期的にできない児童が多く、学校行事や誕生日など特別な日にも交流が出来ない状況もあり寂しい思いをする子もいた。職員や他児がフォローするが寂しさを感じている部分は多かった。里親の活用等、児童が安心して関われる大人の存在を増やせたらなと感じる。

コロナの影響もあり児童と一緒に食材や日用品の購入等をする機会が殆ど持てなかったが、調理は子ども達も一緒に行うよう工夫した。今年度移動してきた児童は、最初は料理することが怖かったけど、やってみると楽しいと自信をつけていた。小学生も朝食は自分の好みの卵料理を作ったり調理することを楽しんでいる。大人と一緒に調理をすることや目の前で調理している姿を見る事ができるのは地域小規模の大きな強みでもあるので、今後も食に対する興味を伸ばせるよう工夫して取り組みたい。

地域行事も中止になったりと交流する機会は少なかったが、公文教室に通ったり、鬼鷲（現代版組踊）の舞台やワークショップへの参加、地域の図書館を１人でも使える等地域に出での活動も増えた。また、WIFI環境も整い、コロナ禍で休校中のリモート学習も行えるようになった。インターネットは簡単に情報を得られる便利なツールであるが、小学生でも安易に検索ができ、年齢にふさわしくない情報に接してしまう事もあるので使用方法については児童と一緒に学習していきたい。

今年度もコロナウイルスによる外出自粛で制限もあったが、その中で楽しむ方法も工夫することが出来た。次年度は児童のメンバー変更はないため、よりお互いの事を理解したうえで、安心・安全なホーム、目標に向かって頑張れるホームを作っていきたいと思う。また、地域に出る機会を多く作り、地域の中で子ども達の支援し、一緒に成長できればと思う。

（７）令和３年度 委員会活動の評価と反省

① 権利擁護委員会 評価と反省

今年度はコロナウイルス蔓延防止対策の為、施設内で過ごす時間が増えた事で一緒に生活をする異性に対して恋愛の関心が高まり、異性間の距離の近さが目立つ等、施設全体で児童の距離間や施設の方針について考える事の多い年度であった。

施設内恋愛や児童の距離間について、児童に関係する職員で話しあう機会を設けた。また性と生でのお

話会では「他者との距離感」をテーマにしたプログラムを計画し実施する等、職員、児童共に距離間について考える機会を多く設けた。施設内恋愛や児童の距離間については、職員によって若干のズレがある事も確認でき、各職員から意見を聞きながら、施設としての方針を再確認して全体で共有できたことは良かった。今後も引き続き意見を出し合いながら支援のズレがないように、すり合わせができるような環境や体制づくりをしていきたい。

前年度の課題でもあったが、「性と生のお話会」の実施が年度末になってしまった。余裕をもった実施が出来るよう計画を立てていたが、委員会の集まりを計画的に持つ事が出来ず、予定より実施が遅れてしまう事があった。次年度は余裕をもって計画と実施が出来るよう取り組みの工夫をしていきたい。

性と生のお話会では、他者との距離感について子どものグループや年齢構成に応じたプログラムを組むことが出来ている。また、以前から異性との距離感について気になる児童もいた為、お話会で施設内での恋愛は認めていない事や安心、安全な関わり方を中高生へ伝え、施設の方針を周知した。施設内での恋愛は認めていない事に関して小学生以下へは伝えていないが、高学年児童に関しては施設児童へ恋愛感情を抱く児童も出てくる可能性がある為、小学生以下へどう伝えていくのかは今後も検討していきたい。

今年度から児童養護施設等資質向上支援事業の一環で「高機能化に必要な人材を育成する為の研究カリキュラム」と「小規模化かつ地域分散化に必要な人材を育成するための研修カリキュラム」の新たな取り組みがあった。新たな取り組みということもあり、不明な点があり参加職員の選出などがギリギリになってしまい参加職員へ余裕をもって周知ができなかった。次年度は担当の方と連携を図りながら、研修の実施に努めたい。

職員研修として野村れいか先生によるオンライン研修を実施。研修では実際に園で対応に困っているケースをもとに話をしてくれ、対応方法や支援に対する多くの学びや気づきを得る良い機会になった。今後もおきなわ CAP センターや外部講話の力を借りながら、施設や職員のニーズにあった研修の計画を行いたい。

② 地域・広報委員会 評価と反省

年度全体を振り返ると、昨年同様コロナ状況の影響が大きく、学校行事（大里中ふるさと伝統芸能）や地域行事（綱引き大会・伝統芸能祭）の開催はなかったが、かろうじて屋外活動の夏休みラジオ体操は短期間ではあるために行えた。しかし、区内の美化作業などは大人のみの参加となり、子ども同士や世帯で集まることはできなかった。区内は高齢世帯が多く生活しているため、慎重に見極めていく必要があるが、逆に高齢者の集えるデイも休止となると家に籠りがちで孤立してしまい心身機能の低下への影響が懸念された。コロナ感染症について長期的対策が必要だが、更に区の民生委員と連動し、配食サービス利用希望者を新たに募るなど、当園ができる公益的活動について検討を重ねていきたい。またホームページ上の更新も、役割などを互いに声を掛け合い意識ができるようになってきた。個人情報取り扱いに留意し、時期更新の時差がでないように、工夫しながら発展に努めていきたい。

③ 学習・スポーツ委員会 評価と反省

<学習面>

コロナの影響で休校もあったが、学習面では多くの児童が成績優秀者として表彰を受ける事が出来た。今年度の取組として惜しくもどの部門にも表彰を受けられない子に対して、日頃の頑張りを評価した賞を授与する事で全員が評価を受ける場面を作れたのは良かった。今後も継続して実施したい。

<スポーツ面>

コロナの影響で球技大会が中止になったため代替行事を実施。今後も影響を受ける事もある事から、子ども達の意見を聞きながら行事を実施できればと思う。

<その他>

職業指導員と連携をして実施する事も多くあるため、しっかり役割分担を行いながら進めていきたい。自転車が劣化しており今後購入検討。また駐輪場の設置についても検討したい。

④ リービング・アフターケア委員会 評価・反省

今年度は委員会メンバーが年度途中で離職や休職となり、委員一人ひとりの負担が例年と比べると多くなってしまった。その中でもそれぞれが役割分担を行い、これまでの取り組みを実施出来た事、新しい

取り組みにも挑戦出来た事はとても良かった。

特に今年度から委員会メンバーとなった職員が積極的に発言してくれる事で、大きな変化が生まれ、これまでは外部に協力してもらっていた自立に向けたプログラム以外に園内でのプログラムを実施する事が出来た事はとても良かった。自立に向けて子どもたちの不安や困り感を一緒に考える事で子どもたちの自立度の現状をしっかりと把握する事が出来た。

また、コロナ禍という事で卒園者に物資の支給が出来た事は施設としてアウトリーチ的な踏み込んだアフターケアが出来たかと思う。今後も卒園者に向けた支援や助成の情報をしっかりと集め、各団体などとも協力関係を強め、卒園者が来園するよう意図的な機会を作れるようにしていきたいと思う。

⑤ 施設環境整備・感染症予防委員会 評価と反省

<環境整備>

年度初めに危険個所の把握をできたのはよかったと思う。定期的に危険個所を確認することができなかったのも、次年度は計画を立てて行いたい。美化活動について、その都度行えたが、計画的（月1回）に実施することができなかった。事前に予定を組む必要があると思う。園車の清掃に関しては、各ホームに担当の車両を配置したが、なかなか意識してくれず自ら清掃する様子は見られなかった。この方法での清掃は難しいようなので、次年度は違う方法を考えたい。

<感染症対策>

感染症対策の面ではその場の対応になってしまい先を見据えた対応が出来なかった。次年度は委員会ですっかり話し合いをして、感染症委員会としてすべき事を決めていきたい。

今年発足した委員会という事もあり手探りの状態であった。集まる機会を定期的に作る事が出来ず思うような活動ができなかった。今年度の反省を生かし、次年度は計画的に行えるよう話し合いの場を増やしていきたい。

（8）令和3年度 グループ活動の評価と反省

① リーダー会活動 評価と反省

今年度から各階主任もリーダー会に加わり、個別対応職員とともに3名で担当した。

コロナ禍という状況下のため、リーダー会の研修が出来なかった。また、アルバイトや部活動など個々の活動も盛んであったため、話し合う機会が少なかったことが残念であった。

メンバー構成では去年から参加している児童もあり、恒例化している行事に関しては、自分達のアイデアを出し、意欲的に役割を果たすなど経験や継続した力を培っているという場面も見られ頼もしさを感じた。今年度は行事主体での活動になったが、生活場面で「自分の意見が言える」「仲間意識」「主体性」を持てるリーダー育成が出来るよう次年度は研修や話し合いの場を取り入れたいと思う。

子ども達からの意見を集めるように心掛け、施設での生活が充実し、肯定的に捉えられるようリーダーを中心に、より良い施設になるようにしたい。

② 男子小学生グループ活動 評価と反省

小学生男子が余暇時間を持て余している姿が見られ、久しぶりに小学生の男子グループを再開。夏休みやコロナの影響での外出の制限期間に、園内でのプール遊びやグラウンドでドッジボール遊びなどの活動をした。

良かった点としては、男子での活動と位置付けていたが、小学生女子や幼児も仲間に入れるなど雰囲気の良い点が見られた。また、観月会にグループで出る事を目標に余興練習を行う。練習時の雰囲気もすごく良く、子ども達も頑張っていたが、当日は参加が難しい児童が4人ほど出てしまい全員での参加はできなかった。その代わり急遽年長児が参加してくれ盛り上げてくれ、そのお礼にメッセージカードを後日メンバーから年長児に渡し感謝の気持ちを伝える良い機会となった。

児童館の関係を良くする。協調性を養う事もグループ活動の一つとして考えていたが、気持ちを素直に表す事が不得手な児童が多く話し合いなどでも意見を尊重しあえたり行動できなかった。

・年度後期からは各児童、余暇時間が充実し集まりも少なくなってきたが意図的なグループ活動を通して協調性を養う事ができるのは園内における小学生グループだと思うので今後も不定期ではあるが活動を続けていきたい。

③ 女子小学生グループ活動 評価と反省

数年ぶりの活動の再始動であり、当時の活動内容を知っている児童はおらず、担当職員自身もどのような活動か分からずに手探りで活動開始であった。しかし、グループ活動名も変更し、心機一転、新しい活動という捉え方で対象児童と一緒に作り上げていく事ができたと思う。そんな中、自立ホームの入所者との交流も含め料理教室を開催し、児童の楽しむ様子が見られ1回目の活動は成功に終わったと思う。

本来であれば、もう少し定期的な活動を実施し、配ったファイルに子どもたちの様々な思い出を残していったかったが、そこが充実させられなかったのは残念であった。また、各担当ホーム職員にも実施状況を報告し、活動内容をより理解し協力してもらう体制作りも必要であったと感じる。コロナ禍で制限される事も多いなかで充実した活動内容とする為に、職員として何ができ、何ができないのか？「できない」を「できる」にする為に、どのような事を変更して臨めばいいのか？という工夫が必要であったと思う。

6年生の児童が中学校へ進学すると、対象児童が分園の同一ホーム内の3名となるため、次年度以降の活動の在り方については担当ホームの職員と相談、検討が必要になるかと思う。

(9) ボランティア活動 評価・反省

今年度はコロナ禍の影響により、ボランティアに来園を控えてもらう事も多く、ボランティアや外部の方々とかかわり、交流が少なかった。制限がある状況ではあったが、たくさんの方々から、施設、子ども達へと温かい支援を頂き感謝である。

今年度、家庭教師派遣の費用支援など新しい支援団体と調整もでき、家庭教師（大学生）による個別学習支援もスタートした。また、企業（SBI 子ども希望財団）支援も継続しており、3名の小学生が公文教室（英語）へ通塾している。

学力の低い子や発達の特徴がある児童も多く、個々のレベルに合わせた学習支援も必要である。個人のボランティアが減ってきていたが、支援団体と新しくつながることができ、子ども達への学習支援が広がっていることは良い事であり、今後も効果的な取り組み、活動となるよう職員間で連携して取り組みたい。

その他に、今年度もたくさんの方々が、個人・団体と様々な形で施設への支援をしてくださった。特に卒園する児童に対しては、不動産（アパート）契約時の支援やリースアップ家電の提供支援など、卒園後の自立生活支援としてとても大きかった。また、地域の方々からもあたたかい支援がある。日々の生活の中で子ども達にも意識して伝えていき、地域の一員である事を感じさせるよう職員も働きかけたい。

子ども達の自立支援と子ども達の社会性や感謝の心を育てるためにも、外部の方々との交流は大切である。そのためにもボランティアの皆さんに対し『丁寧に関わる』という事を大切にしていきたい。

コロナ禍でもあり

(10) 被虐待児等地域療育支援・連携体制構築事業（こころサポート事業）評価・反省

コロナウイルスが世にまん延し、前年度はどのように対応していかなければならないのか分からず、手探りで支援事業を行ってきたなかでより良い支援方法が徐々に確立してきたのが今年度の当事業活動であったと思う。特にオンラインツールを駆使し、前年度は開催する事ができなかったオープンスペース里親を開催する事ができ、講演会の様子を録画しYouTubeで配信する等、参加者の学びを深めるような試みにも挑戦する事ができた。

また、園内でも当事業が中心となり専門医による園内研修を実施し、職員のエンパワーメントを引き出す機会を設けたり、生い立ちの整理に関する研修も実施する事ができ、施設入所する児童の理解を深め、児童支援の質向上に寄与する事ができたと思う。さらに園内研修やフォスタリングチェンジプログラムのファシリテーターを務め専門知識をアウトプットする機会が増え、自身の知識として習得したと手ごたえを感じる事が増えた。

当事業がスタートし9年目となった。里親家庭のアンケート結果から、「利用した事がある」と答えた里親からは良い変化がもたらされたと回答する割合が多く、当事業の利用に繋がれば良い効果が得られる事が分かっている。しかし、回答結果のなかで「利用したことがない」と答えた割合が多く、頂いた意見の中には、『当事業のスタッフの顔が分からない』というような回答が依然と多い。当事業の利用促進のために、里親支援専門相談員と協力し同行訪問をする等、より身近に感じてもらえるようにしていきたい。また、この世相を反映させるような、オンラインでの相談の要望も数多く寄せられ、ハード面では実施可能な状況も整備してきており、オンライン相談の実施検討も考慮し、ソフト面での体制作りも検討してい

たいと思う。

今年度は九州児童福祉施設職員研究大会で、当事業について発表する機会や県内の里子が措置解除になったニュースが全国区で流れるなど、里親・里子に関する話題、注目が多かったように感じる。これからも当事業の強みを活かしながら、“子どもの最善の利益”を常に考えながら支援していきたい。

(11) 令和3年度 専門的支援の評価と反省

① 心理相談事業 評価と反省

年度当初は、ホーム職員との関係性を重視し、子どもの特徴理解や支援の方向性などを確認する時間を多く持ち、丁寧に面接までの導入を行う事を意識して実施した。そのおかげで、ホーム職員と連携しながら実施する事ができたと思う。個別心理面接が開始してからは、ホーム職員との時間を十分に確保できなくなったのは残念であったが、できるように工夫も必要であり、試行錯誤しながら次年度も実施に向けて取り組んでいきたいと思う。

初めての取り組みとして、集団心理療法を302にて実施した。発達特性が強い児童が数名生活している環境で度重なるトラブルに職員も対応に苦慮しており、心理士として生活場面に介入できる方法として計画実施したが、計画的に見通しを持って活動展開出来なかった。また、児童の移動も重なり、本来予定していた、ホーム職員と子ども達との所属感や仲間作りを行いながら生活の中での困り感に関する対処法まで実施に至らなかった。心理士として、生活場面での支援の仕方、フォローアップの仕方をもっと意識を持って実施できるように今後も考えていきたい。

今年度は心理治療施設（ノアーズ・ガーデン）より入所した児童の通所対応にも入り、個別心理面接担当外児童もいたので状況を把握しながら、生活場面と繋げていく作業は苦慮した。ただ、学びも多くあり、連携しながら一緒に支援していく事は励みにもなるので貴重な時間となっている。

担当ケース外での調整や相談など今年度は職員と支援について考える時間作りを意識したが十分ではなく、今後も必要な時間であると認識はしているが、個別心理面接を行いながら、他業務等実施して行く中での時間的な限界もあるので、どう工夫していくかが個人的な課題だと感じている。

次年度に向け、チーム支援である児童養護施設の良さを活かせるように、また、支援者が意欲的に子どもと向き合えるように心理士としてできる事を常に考え取り組んでいきたいと思う。

(こころサポート心理療法担当)

今年度は個別面接が5名、園内児童担当心理士と共同で6名の集団面接を実施した。特に集団面接については初めての試みであり、心理士と一緒に手探りで試行錯誤しながらの実施であった。ホームという集団生活の中で他者を思いやる心を養い、協調性を育むことを主目的として、ホーム内の生活の中に心理ワークを導入する形を構想として考えていた。しかし、対象集団の人員構成の変化やホーム職員にも集団面接の目的が浸透しておらず、予想していた結果に至らなかった。この経験を通して、日頃から児童の生活場面で支援を行っているホーム職員との情報共有を密にする事の重要性を痛感し、児童を中心にホーム職員と協力しながら包括的な支援をしていく必要性を感じた。

また個別面接も同様であり、今年度は心理面接の導入も丁寧に行うために初回面接時は対象児童以外にもホーム職員にも同席してもらい、ホームの主訴や今後の心理面接の計画について伝えた。その結果、面接に対して抵抗感を訴える事もなく受け入れる様子が見られた。面接開始当初は、ホームの担当者会議等で心理面接での様子を伝える事ができていたが、年度の後半に入るとなかなか担当者会議開催日と当職の日程が合わず、当職側から意識的に伝える機会が減ってしまった事は反省すべき点であった。次年度は意識的にホームと連携を深めていきたいと思う。

以前に比べ、園内児童担当心理士とそれぞれの担当するケースについても状況報告を行い、より良い支援の為に検討する機会を増やす事ができた。同様に、心理士連絡会を通して他施設と心理技法のワークについて情報共有する事もできた。これからは更に、資質向上の為に横のつながりを強固にし研鑽に励みたいと思う。特に、発達特性、愛着関係、生い立ちの整理、トラウマケアこれらのメカニズムや対処法については学び直しが必要に感じる。これら入所児童に深く関わる部分を見分を深めていきたいと思う。

② 個別対応 評価と反省

・個別活動ケース数 6 個別活動回数 107

・個別対応連絡会

第1回：令和3年5月 第2回：令和3年10月20日(ZOOM開催)

第3回：令和4年2月16日(ZOOM開催) *体調不良により欠席

今年度は301ホーム2ケース、チャイルドホーム1ケース、結スマイル3ケース、合計6ケースの児童の個別活動を行った。

コロナウイルスの影響で外出自粛が続いている中で個別の時間を発散の時間として活用できるように意識した。制作活動が好きな子が多く、作成する事で他者から評価を受ける場面を作って自己肯定感を高められるようにした。

個別対応職員としてホーム担当者会議へ参加しているが勤務時間の関係で参加できていない会議もあるため、調整出来るようにしたい。参加する際は個別活動での状況を共有し、またホームからの要望等を確認するよう努めた。

部活、園外活動が増えた児童が自身のスケジュール把握が出来ずに、個別活動は後回しになってしまっていた。本職からも声掛けは行いが気持ち乗らずに休むことが増えたため、年度途中でホーム職員も交えて話し合い、自身のやりたい事を優先にする事も大切だが、けじめはつけるべきである事を向け個別活動を終結している。スケジュールの管理をホーム職員と行い、子どもが無理なく続けられるように対応するべきであったと反省です。

② 個別対応 評価・反省（職業指導員）

今年度も前年度に引き続きコロナウイルス影響で活動に制限を感じてしまった。その中で出来る事を考え、子ども達の要望に応えられる様に職員自身も工夫が必要だと感じた。運動、学習、体験学習など本職が担当となる目的に沿い、活動内容を計画していきたい。4名ともにコロナの影響や本職の別件対応等で予定していた回数よりも実施回数が少なかったため、別日で取り組む等もっと子どもと一緒に考え活動内容を計画できる様にしていきたい。

③ 職業指導員 評価と反省

今年度も前年度に引き続きコロナのウイルスの影響を受け、社会見学や職業体験、農業体験など参加型の取り組みが行えなかった。その分、旧チャイルドホームを活用した自活訓練プログラム（一人暮らし体験）や園内での自立に向けたプログラムなどの取り組みを行い、自立を意識した取り組みが行えた。

さらに、今年度から算数（数学）検定を園内実施できる様に調整したことで、今までの漢字検定に加え資格取得に向け挑戦しやすい環境になった。また、新しく支援団体との繋がりから家庭教師派遣を開始する事が出来、子ども達の学習環境はとても良くなってきており、次年度はこの支援を安定させ、学習スポーツ委員会とも連携しながら子どもたちの学習環境を整えていきたい。

また、自立に向けた支援として、株式会社レキオスと連携し居住先の決定までの支援、今年度より株式会社北斗からのリースアップ家電の寄贈支援やライツオン・チルドレンからのリースアップPCの寄贈支援など様々な協力をして頂き、自立に係る費用を抑え、高校3年生を送り出す事が出来た。団体や企業との関係性を強化し、継続して支援して頂けるようにしていきたい。

FSWが担当していた奨学金関係の引継ぎを受けながら担当する事で、高校3年生と自立に向けた計画や話をする機会が増えた事でアフターケアも継続して対応しやすい状況になるかと感じている。

アフターケアでは卒園児対象の支援金などにも積極的に申請し、多くの卒園者に支援金を渡す事が出来た。今後も情報を集め卒園児の支援も強化していきたい。また、「児童を支援する会」の事業を活用させて頂き、卒園者31名に物資の支給支援をすることが出来た。コロナ禍で頑張っている卒園児への良い激励になったかと思う。特に県内在住の子については直接施設に来園して受け渡しをする事で顔を合わせての状況確認、激励が出来たので継続して行っていきたい。

④ 家庭支援専門相談事業 評価・反省

今年度、昨年度から調整していた高2女子が年度途中（11月）家庭復帰となる。児童の課題もあり、予定していた時期から延びてしまった。母子間での話し合い、施設、児相との協議を重ね児童、保護者も納得して家庭復帰となる。地域の関係機関、母の支援期間とも連携して家庭復帰後の支援に取り扱っている。

高校卒業を目指しており、通信制高校への転学も決まり高校卒業を目指している。施設としても状況を確認し、必要なサポートに入りたい。

幼稚園女兒は、時間をかけて交流調整を進めていた。保護者から小学校入学に合わせて本児を引き取りたいと強い希望もあり、家庭復帰に向けて兄相と協議を重ねて、年明けから家庭復帰調整として外泊交流プログラムに取り組み、幼稚園卒園後、措置停止にて家庭復帰となる。地域要対協と連携し、小学校入学後の登校状況、母子の生活状況、養育状況を見守り支援を継続しているところである。

そのほか、家族交流調整や保護者、家族支援もケース毎に取り組む。連絡の取りづらい保護者、関係作りが難しい保護者など対応の難しい保護者もあり、職員間ではしっかりと情報共有し、統一した対応に努めている。今後も保護者との関係構築に向け FSW の役割を意識してホーム担当職員とも協力していきたい。

高校卒業する児童の進路決定について、ホーム担当を中心としながら職業指導員、心理士、個別対応職員など各専門職も関わり支援する。

今年度、高校卒業児童は男子 2 名。2 名共希望の県内大学へ進学が決まる。給付型奨学金や支援金の受給も決まり進資金の目途も立てられた。また、生活拠点となるアパートも卒園までに確保することもできた。職業指導員、ホーム担当職員とも協力してアフター支援も取り組みたい。

高校生には早い段階で、具体的な目標や資金計画などしっかりと取り組むことが大切である。早い段階から、児童だけではなく担当職員とも計画的に取り組んでいくようにしたい。

次年度も職員間の連携を密にして、それぞれのケースに合った『家族再統合』を目標に児童・家庭への支援の充実に努めたい。

⑤ 里親支援専門相談員 評価・反省

里親家庭の支援の中で、今年度は『告知』の相談が多かった。当職が里親支援専門相談員として配属され 4 年となり、乳児院から家庭へ迎え入れた世帯や地域からの委託となった世帯の子どもが自分のルーツを理解し始める年齢（就学前）に差し掛かる時期でもあった。家庭養護における子どもの権利擁護の根幹である『告知』は、子どもにとって最も近い里親より受ける事が適当とされているが、その分里親の心中は複雑であるため、子どもの年齢や発達特性、時期、そしてその方法について家庭ごとに合わせ、里親の不安がなくなり納得した方法で行えるよう一緒に考えて行うようにした。次年度も登録される里親とのご縁を大切に、児童福祉法の制度の下に、里親子の支援に精進していきたい。

（12）自立援助ホーム「島添ホーム」 評価と反省

今年度も女子 3 名でスタートとし、10 月に 1 名、2 月に 1 名が入所している。退所は 8 月に 1 名、3 月に 1 名となっており、年度末には 3 名の在籍である。

8 月に退所した利用者は専門学校付近の学生寮に入る事が出来た。学生寮の規則や費用、周辺のバイト先を積極的に調べたり、生活シミュレーションを通して学費や生活費の確認を何度も行なった。退所前には学生寮にて自活訓練も実施でき、自立する上での課題や困り感の確認も出来た。キーパーソンとなる家族とも連携が図れ、スムーズな退所の運びとなった。

9 月に 20 歳を迎えた利用者は措置解除後、沖縄県の委託事業を活用しホームに残る事が出来た。当人も残れる事に感謝の言葉を述べていた。

3 月に退所した利用者は「自由になりたい」と突然実家に帰っている。保護者や児童相談所、施設が在籍するメリットを何度も伝えたが、当人の強い希望で退所となった。

穏やかな性格の利用者が多く、共有の場に集まると自然にコミュニケーションを図っていた。年相応の興味関心や共通の話題で盛り上がる姿も見られた。また、利用者同士でお菓子作りをする事もあった。

施設経験がある利用者の基本的な生活習慣は確立している。時折、声掛けをする時もあるがすぐに行動できる。家庭から来た利用者も集団生活に馴染もうと頑張る姿は見られるが持続は難しい。洗濯物の干し方や食器の洗い方、衛生面等の指導や声掛けは工夫しながら対応した。定着は、まだまだ時間を要しているが意識はしつつある。

コロナウイルス感染予防の為、行動自粛の協力を求める事が多かった。沖縄県の感染者減少のタイミングを見てホームで外出したが回数は少ない。一部の学生はバス通学で感染率が高くなるので、職員による送迎も実施した。

当人らの意思を尊重しながらコロナウイルスワクチン予防接種をする事が出来た。

成人を迎えた社会人は振袖姿を職場スタッフに見せる事が出来た。また、担当職員も同行する事で当人の仕事の様子の把握、やりがいや意欲の確認に繋がった。

今年度は学生（大学生、専門学生、高校生）の受け入れも行なった。各学校以外にも奨学金関係の手続きもあったので漏れが無いように心掛けた。高校生は単位が足りず、進級する事が出来なかった。担任との連携が不十分でもあったので改善する必要がある。

社会人の収入は安定しており、計画的に貯金が出来た。学生はコロナ禍の影響を受け、条件にあったバイト先を見つけるのに苦戦している。その為、安定した収入が得られずにいた。

関係機関との連携を図る事が多かった。利用者に対しての理解を深める機会にもなったが、時には職員が外部対応に苦慮する事もあった。その都度、支援方針を確認するよう心掛けた。

利用者居室（3人部屋）に仕切りを入れ、半個室として環境を整えた。生活音は聞こえるので行動に配慮は必要であるが、一人の空間確保は出来た。

利用者の生活状況をホームページで定期的に発信した。見学者からは「ホームページ見ました。」とあり、ホーム周知に繋がっている。

本園職員と連携を図りながら退園生の把握に努めた。コロナ禍もあり、ホームに招くことや家庭訪問は控えたが、連絡は取り合える距離間を保てた。

今年度はホーム職員2人の入れ替えがあった。自立援助ホーム運営について話し合い、ケースカンファレンスの場を多く設けた。無断外出やオーバードーズ等の課題を抱えた利用者の対応に苦慮する事もあったが、その都度、状況確認し負担が偏らないに心掛けた。合同会議（園長、養護課長、本園心理士）も必要に応じて実施し支援の方向性がずれないようにした。また、職員のメンタルケアにも繋がった。

来年度も、職員が協力しあいながら支援にあたり、何事も楽しみながら取り組む姿を利用者に見せられるようにしていきたい。

3. 令和3年度参加会議

月	日	会 議 名	参 加 者	場 所
4	6	西崎小学校関係者会議	里親支援専門相談員 児童指導員	西崎小学校
	7	令和3年度第1回里親支援相談員連絡会	里親支援専門相談員	美さと児童園
	15	令和3年度第1回児童相談所・里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	22	令和3年度こころサポート事業担当者連絡会	療育コーディネーター 心理士	ここサボ里親
	28	第6回沖縄県児童養護施設長会議	施設長	島添の丘(オンライン)
5	20	令和3年度第2回児童相談所・里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	27	令和3年度こころサポート事業担当者連絡会	療育コーディネーター 心理士	美さと児童園
6	2	令和3年度6月里親支援相談員連絡会	里親支援専門相談員	袋中園
	4	2021年度沖縄国際大学第1回相談援助実習指導者懇談会	個別対応職員	島添の丘(オンライン)
	16	2021年度沖縄大学第1回相談援助実習指導者懇談会	個別対応職員	島添の丘(オンライン)
	17	令和3年度児童相談所、里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	19	里親支援専門相談員児童相談所との連絡会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	24	こころサポート主催関係者会議	里親支援専門相談員 療育コーディネーター 心理士	島添の丘(オンライン)
	30	令和3年度中部地区里親サロン	里親支援専門相談員	美さと児童園
7	8	2021年度第1回フォローアップミーティング	里親支援専門相談員 心理士	島添の丘(オンライン)
	9	令和3年度7月里親支援専門相談員連絡会	里親支援専門相談員	島添の丘(オンライン)
	15	令和3年度7月児童相談所・里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	15	令和3年度こころサポート事業担当者連絡会	療育コーディネーター 心理士	島添の丘(オンライン)
	19	全国自立援助ホーム九州ブロックホーム長ズーム会議	施設長	島添の丘(オンライン)
	19	虹のしずく主催第4回自立支援プログラムに関する会議	職業指導員	島添の丘(オンライン)
	20	令和3年度7月北部地区里親サロン	里親支援専門相談員	21世紀体育館
	20	令和3年度第1回課長級職員会議	養護課長	島添の丘(オンライン)
	27	令和3年度7月中部地区里親サロン	里親支援専門相談員	美さと児童園
	28	令和3年度7月中部地区里親サロン	里親支援専門相談員	美さと児童園
8	5	令和3年度8月里親支援相談員連絡会	里親支援専門相談員	島添の丘(オンライン)
	19	令和3年度8月里親支援相談員連絡会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	26	令和3年こころサポート事業担当者連絡会	療育コーディネーター 心理士	島添の丘(オンライン)
	27	南城市要保護児童対策協議会	療育コーディネーター	南城市庁舎

9	1	令和3年度9月里親支援専門相談員連絡会	里親支援専門相談員	島添の丘(オンライン)
	17	全国自立援助ホーム九州ブロック情報意見交換会	保育士	島添の丘(オンライン)
10	13	里親・児相・FCWここサポとの個別支援会議	里親支援専門相談員	島添の丘(オンライン)
	15	児童福祉施設心理療法担当者職員連絡会	心理士2名	島添の丘(オンライン)
	19	里親の為のアフターケア会議	療育コーディネーター 心理士	県総合福祉センター
	21	令和3年度10月児童相談所・里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	27	令和3年度10月中部地区里親サロン	里親支援専門相談員	美さと児童園
11	27	第74回全国児童養護施設長研究協議会	施設長・養護課長	島添の丘(オンライン)
	28	令和3年度ここサポート事業担当連絡会	療育コーディネーター 心理士	ここサポート里親
	2	第33回沖縄県児童養護施設等スポーツ大会実行委員会	個別対応職員 児童指導員	島添の丘(オンライン)
	4	令和3年度里親支援専門相談連絡会	里親支援専門相談員	袋中園
	9	令和3年度家庭支援専門相談員連絡会	家庭支援専門相談員	若夏学院
	16	令和3年度第2回沖縄県児童養護施設課長級会議	養護課長	愛隣園
	22	令和3年度災害時福祉支援体制整備事業「社会福祉施設等における新型コロナウイルスの今後(第6波)に備えて」	施設長	島添の丘(オンライン)
	3	令和3年度第2回児童養護施設等栄養士連絡会	栄養士	沖縄県庁
	23	令和3年度12月児童相談所里親支援相談員定例会	里親支援専門相談員	中央児童相談所
	17	3月児童相談所・里親支援専門相談員定例会	里親支援専門相談員	中央児童相談所 児童2名

4. 令和3年度 参加研修

月	日	研修名(主催)	参加者・(職種)	場 所
4	2	新任職員研修園長講話①	新任職員7名	島添の丘
	5	新任職員研修園長講話②	新任職員7名	島添の丘
	6	新任職員研修庶務課長講話	新任職員7名	島添の丘
5	3	結スマイルホーム研修	職員4名・児童6名	結スマイル
	12	長田 Dr 施設内研修1回目(9年目以上)	施設長・養護課長・専門職 児童指導員・保育士 13名	島添の丘
	22	高校2、3生対象奨学金関係説明会	リービング・アフターケア委員会・児童6名	島添の丘
	26	第57回子どもの虐待防止セミナー「施設で暮らす高年齢児への自立をさせる」	児童指導員・保育士 10名	島添の丘
	26	長田 Dr 施設内研修2回目(9年目以上)	施設長・養護課長・専門職 児童指導員・保育士 13名	島添の丘
	29	202ホーム研修	職員4名・児童5名	202ホーム
6	2	長田 Dr 施設内研修1回目(8年目以下)	児童指導員・保育士 11名	島添の丘
	4	令和3年度第1回養子縁組基礎研修	里親支援専門相談員	県総合福祉センター
	20	302ホーム研修	職員3名・児童6名	302ホーム
	23	301ホーム研修	職員3名・児童6名	301ホーム
	30	長田 Dr 施設内研修2回目(8年目以下)	児童指導員・保育士 15名	島添の丘
7	7	長田 Dr 施設内研修3回目(8年目以下)	児童指導員・保育士 11名	島添の丘
	11	201ホーム研修	職員3名・児童5名	島添の丘
	31	スマホ教室	職員8名・児童22名	島添の丘
8	2	第68回九州児童福祉施設職員研究大会	施設長・養護課長・専門職 児童指導員・保育士(23名)	島添の丘(オンライン)
	24	ライフストーリーワーク	心理士・里親支援専門相談員 個別対応職員・療育コーディネーター 児童指導員(8名)	島添の丘(オンライン)
	24	権利についてお話し会①(幼稚園児)	職員2名・児童2名	島添の丘
	24	権利についてお話し会①(小学2～3年)	職員2名・児童5名	島添の丘
	24	権利についてお話し会①(小学4～5年)	職員2名・児童5名	島添の丘
	24	権利についてお話し会①(小学6年)	職員2名・児童3名	島添の丘
	24	権利についてお話し会①(中学1～3年)	職員2名・児童11名	島添の丘
	24	権利についてお話し会①(高校1～3年男子)	職員2名・児童6名	島添の丘
	24	権利についてお話し会①(高校1～3年女子)	職員2名・児童5名	島添の丘
9	2	新任職員施設長講話	施設長・職員1名	島添の丘
	11	リービング園内研修(高2、3年生対象1)	職員5名・児童7名	島添の丘
	28	ライフワークストーリー研修	児童指導員・保育士 心理理・療育コーディネーター	島添の丘(オンライン)
	30	福祉サービスに関する苦情解決セミナー	養護課長	県総合福祉センター

10	16	第 66 回全国里親大会九州地区里親研修	里親支援専門相談員・療育コーディネーター	島添の丘(オンライン)
	17	第 66 回全国里親大会九州地区里親研修	里親支援専門相談員・療育コーディネーター	島添の丘(オンライン)
	22	令和 3 年度養育里親・養子縁組里親基礎研修	里親支援専門相談員	県総合福祉センター
	23	にじのしずく主催第 2 回自立支援プログラム	職業指導員・家庭支援専門相談員	県総合福祉センター
	27	ライフストーリーワーク体験講座	職員 16 名	島添の丘
11	3	オンライン研修子供の命を守るには～児童虐待の取材を通して～	個別対応職員・保育士	島添の丘(オンライン)
	15	令和 3 年度 地域における公益的な取り組み実践セミナー	施設長	島添の丘(オンライン)
	20	第 58 回 子どもの虐待防止セミナー マルトリートメントが子どもの脳の発達に与える影響	児童指導員・保育士・心理士 療育コーディネーター 10 名	島添の丘
	29	令和 3 年度養育里親・養子縁組里親登録前研修	里親支援専門相談員	県総合福祉センター
	30	令和 3 年度養育里親・養子縁組里親登録前研修	里親支援専門相談員	県総合福祉センター
12	3	SORAE 研修会「不登校 ひきこもり ニート支援」～自閉症スペクトラム、ゲーム依存の課題と共に～	里親支援専門相談員	島添の丘(オンライン)
	4	虹のしずく主催第 4 回自立支援プログラム	職業指導員・療育コーディネーター 児童 2 名	にじの森文庫
	16	令和 3 年度第 1 回養育里親更新研修	里親支援専門相談員	県総合福祉センター
	23	性と生についてお話し会②(幼稚園児)	職員 2 名・児童 2 名	島添の丘
	25	性と生についてお話し会②(中学生男子)	職員 2 名・児童 8 名	島添の丘
	26	性と生についてお話し会②(小学 2～3 年)	職員 2 名・児童 5 名	島添の丘
	27	性と生についてお話し会②(小学 4～5 年)	職員 2 名・児童 4 名	島添の丘
	27	性と生についてお話し会②(小学 6 年)	職員 2 名・児童 3 名	島添の丘
	27	リービング委員会主催高校生対象自立支援プログラム	職員 4 名・児童 11 名	島添の丘
	28	性と生についてお話し会②(高校生男子)	職員 2 名・児童 6 名	島添の丘
	28	性と生についてお話し会②(高校生女子)	職員 2 名・児童 4 名	島添の丘
	30	性と生についてお話し会②(中学生女子)	職員 2 名・児童 6 名	島添の丘
1	14	CAP～高機能化に必要な人材育成のための研修	心理士・家庭支援専門相談員 個別対応職員・職業指導員	島添の丘(オンライン)
	17	第 38 回沖縄県児童養護研究大会第 3 研究部会	児童指導員・保育士 専門職 合計 13 名	島添の丘(オンライン)
	18	全国自立援助ホーム協議会令和 3 年度実践報告会	児童指導員・保育士	島添ホーム(オンライン)
	19	CAP～高機能化に必要な人材育成のための研修	心理士・家庭支援専門相談員 個別対応職員・職業指導員	島添の丘(オンライン)
	20	第 38 回沖縄県児童養護研究大会第 2 研究部会	児童指導員、保育士 調理士、栄養士	島添の丘(オンライン)
	21	第 38 回沖縄県児童養護研究大会第 1 研究部会	児童指導員・保育士 13 名	島添の丘(オンライン)
	21	令和 3 年度専門里親更新研修	里親支援専門相談員	県総合福祉センター
	23	エンジェルサポート自立支援プログラム	児童 2 名	島添の丘(オンライン)

2	2	CAP～小規模かつ地域分散化に必要な人材を育成	児童指導員 2名	島添の丘(オンライン)
	3	CAP～小規模かつ地域分散化に必要な人材育成	児童指導員 2名	島添の丘(オンライン)
	21	CAP～高機能化に必要な人材育成のための研修	心理士・家庭支援専門相談員 個別対応職員・職業指導員	島添の丘(オンライン)
	25	CAP～高機能化に必要な人材育成のための研修	心理士・家庭支援専門相談員 個別対応職員・職業指導員	島添の丘(オンライン)
3	2	フォスタリングチェンジプログラムアフターセッション	里親支援専門相談員・心理士	なごみ
	6	エンジェルサポート自立支援プログラム	児童 2名	島添の丘(オンライン)
	7	第2回沖縄県内社会福祉法人等連携による協働事業検討会	施設長	島添の丘(オンライン)
	8	児童養護施設等資質向上支援事業SV研修	児童指導員・保育士 21名	島添の丘(オンライン)
	9	CAP～高機能化に必要な人材育成のための研修	心理士・里親支援専門相談員 職業指導員・個別対応職員	島添の丘(オンライン)
	15	性と生についてのお話会③	職員 2名・児童 1名	島添の丘
	20	エンジェルサポート自立支援プログラム	児童 2名	島添の丘(オンライン)
	31	性と生についてのお話会③	職員 2名・児童 5名	島添の丘
	31	性と生についてのお話会③	職員 2名・児童 3名	島添の丘
4	5	性と生についてのお話会③(令和3年度実施)	職員 2名・児童 3名	島添の丘
	5	性と生についてのお話会③(令和3年度実施)	職員 2名・児童 8名	島添の丘
	8	性と生についてのお話会③(令和3年度実施)	職員 2名・児童 4名	島添の丘
	9	性と生についてのお話会③(令和3年度実施)	職員 2名・児童 3名	島添の丘
	9	性と生についてのお話会③(令和3年度実施)	職員 2名・児童 7名	島添の丘